週刊 YEAR BOOK

1987
昭和62年

日録20世紀

4|28
平成10年4月28日発行
(毎週1回発行)第2巻第16号
¥560
講談社

金賢姫と「大韓航空機爆破」

日本、53年にわたる南氷洋捕鯨に幕!
マドンナ、マイケル・ジャクソン来日狂騒曲
「赤報隊」、朝日新聞阪神支局を襲う!

「ソウル五輪妨害のため、金正日書記の指令で」美貌の工作員が衝撃の真相を供述！

金賢姫と「大韓航空機爆破事件」

一九八七年一一月二九日、中東から韓国・ソウルに向け飛行していた大韓航空機が、ビルマ（現・ミャンマー）沖で空中爆発した。乗客・乗員一一五人は全員犠牲になった。そしてそれは北朝鮮の工作員・金賢姫らによるテロで、指令をしたのは金正日書記である、と韓国側は発表した。東西冷戦末期に勃発した、このおそるべき破壊工作の全貌とは？

▼金賢姫が記者会見をした1988年1月15日、韓国捜査当局が公開した約200点の遺留品。日本人名義の偽造旅券、自殺した金勝一の気道から取り出した毒薬を仕込んだタバコの吹い口など。二人が身につけていた品々の多くは、日本製品だった。 AP／WWP

▶12月15日、バーレーンから韓国に移送され、ソウルの金浦空港に到着した金賢姫。自殺防止用のマスクをつけられていた。 AP／WWP

突如空中に消えた大韓航空858便

一九八七年一一月二九日午後二時すぎ（日本時間）、バグダッド発ソウル行き大韓航空858便が、ビルマのアンダマン上空で、突然消息を絶った。

乗客・乗員一一五人を乗せた同機は、二時一分にラングーン（現・ヤンゴン）管制塔に対し、「時間と位置は正常」と告げた四分後、突如レーダーから〝消失〟した。空中分解か、爆発しか考えられなかった。遭難したボーイング七〇七型機は、昭和四一年三月に富士山上空で空中爆発したBOAC機と同型で、しかも、同機は、遭難の二ヵ月前に、ソウル・金浦空港への着陸時に車輪が出ず、胴体着陸して、機体に損傷を受けていた。

だが、同機にバグダッドからアブダビまで搭乗した東洋人の男女二人が、遭難から約八〇時間後の一二月一日午前、バーレーンで入管当局の取り調べを受けている、という情報が流れ、事態は一変する。男性は事情聴取中に服毒自殺、それに続こうとした女性は係官に制止され、拘束された。

男性は「蜂谷真一、七〇歳」、女性は「蜂谷真由美、二五歳」と、日本人の親子と称し、偽造パスポートを持っていた。韓国紙は、この時点で、二人が大韓航空機に爆発物を仕掛けた疑いが濃厚と伝えた。

バーレーン当局は、韓国政府の求めに応じ、女性と、男性の死体、証拠物件などを韓国政府に引き渡したのである。

そして「真由美」は韓国国家安全企画部（安企部）の厳重な警戒のもと、一二月一五日、ソウルに到着した。両脇を抱えられ、自殺防止用の猿ぐつわをかまされた「真由美」は、それから安企部による厳しい取り調べを受けることになる。

▶事件は北朝鮮の破壊工作との見方が強まり、厳戒体制が敷かれた金浦空港。一九八七年一二月。

◎表紙　11月29日に消息を絶った大韓航空機に、爆弾を仕掛けたことを明らかにした金賢姫。翌1988年1月15日ソウルで。 AP WWP

「ソウル五輪妨害のため、金正日書記の指令で」
美貌の工作員が衝撃の真相を供述！

金賢姫と「大韓航空機爆破事件」

▲11月にオーストリアのウィーンで撮られた金賢姫のスナップ。裕福な日本人親子をよそおうためのものだった。　AP／WWP

安企部によれば、到着直後の「真由美」は、食事も供述もいっさい拒否したが、翌日から、日本語と中国語で簡単な会話に応じるようになった。だが、韓国語には反応せず、中国人をよそおっていた。時間がたつほどに、「真由美」はテレビが報じる韓国の生活を知り、さらに尋問方法が北朝鮮（朝鮮社会主義人民共和国）で教育されたのと大きく異なることから、動揺が激しくなったという。

韓国到着から八日後の一二月二三日、「真由美」は、突然、女性捜査官の胸をたたき、「オンニ、ミアネ（姉さん、ごめんなさい）」と初めて韓国語を口にし、それ以降、自分たちが大韓航空機を爆破したことなど詳細を供述し始めた。

金賢姫の供述した大韓機爆破の全貌

翌一九八八年一月一五日、ソウルに世界の目が集まった。この日、韓国安企部が「真由美」の供述に基づいた大韓航空機爆破事件の調査結果を発表したからである。記者たちは早朝七時に集合、バスで安企部に向かった。安企部の公開は異例のことだった。午前九時、安企部担当者の捜査結果朗読が始まった。そして午前一〇時、「真由美」こと、「北朝鮮の工作員」金賢姫（二五）が登場した。小声で答える金の言葉は、シャッター音でかき消されがちで、記者団からカメラの音を小さく、と苦情が出るほど。わずか一五分の会見で、金は自分が大韓航空機を爆破したこと、そして犠牲者へのお詫びを語った。

安企部によれば、金は朝鮮労働党中央委員会調査部の工作員で、自殺した「蜂谷真一」を名乗る金勝一とともに、「北」の金正日書記の指示で、この年に開催予定のソウル五輪を妨害するため、破壊工作を行った、と言う。二人は、九時間後に爆発するようセットした時限爆弾と液体爆弾を、遭難機の手荷物棚に入れ、アブダビで降りた、と供述した。

北朝鮮側は当然にも、「すべて『南』のでっちあげ」と激しく反発した。

当時の朝鮮半島は、一九七〇年代初頭まで「北」が経済建設でも優位だったが、その後「南」が「漢江の奇跡」と呼ばれる経済成長をとげて「北」に水をあけ、さらに一九八八年にはソウル五輪開催が決まるなど国際的な地位を高めていた。

「『北』は孤立を深めていた時期でした。しかもソウル五輪に中ソが参加を表明した。その時期に大韓機爆破が起きた。『北』のスパイ工作は、捕まったら自決して『北』の痕跡をなくすのが常。一九八三年一〇月に全斗煥大統領の暗殺をねらったラングーン事件、九六年の潜水艦による侵入事件を見ても北のパターンは決まっています」

▲金勝一のスナップ。ユーゴスラビアのベオグラードにて。二人はここからバグダッドに向かう。　AP／WWP

▲「蜂谷真由美」名義の偽造パスポート。日本国内の大規模な旅券偽造組織の存在が浮かび上がった。　AP／WWP

と言うのは「コリア・レポート」編集長の辺真一氏である。ただ、辺氏は「北」の意図が何かは疑問だともつけ加える。「本当に五輪妨害がねらいだったのか、そこはわかりません。金賢姫も、しょせんは第一線の実行部隊にすぎません。目的も全貌も知る立場じゃないですから」

金賢姫は、「北」の外交官の娘として生まれ、子どもの頃から美貌で知られ、南北会談の折に、花束贈呈役をつとめたりした。一九八〇年に朝鮮労働党に入党以来、工作員として語学や軍事知識など徹底したスパイ教育をほどこされた。

事件後、八九年四月にはソウル地裁で死刑判決を受けるが一年後に赦免され、その後、安企部の監視下で著作や講演活動、さらにはラジオのＤＪなどを続けていた。著書は日韓両国でベストセラーとなり、印税は一億円（一〇億ウォン）に達したとされる。

そして一九九七年一二月、元安企部職員の一歳年下の男性と結婚したが、遺族の反発は大きく、その私生活が公開されることは今後もないだろう。

朝鮮半島では、東西冷戦終結後も厳しい対立が続いている。一触即発の半島を舞台にしたこの事件の真実が解明されるには、まだ時間がかかりそうだ。

◀事件から一〇年後の一九九七年一二月、極秘の結婚式をあげた金賢姫。　「月刊フィール」提供／共同通信社

北朝鮮の対外工作小史

1986年3月13日、オーストリア・ウィーンの米国大使館に一組の韓国人夫婦が駆けこみ、亡命を申請した。映画監督の申相玉とかつてのトップ女優の崔銀姫だった。二人は、1978年に滞在先の香港で相次いで行方不明となり、ＫＣＩＡによる拷問死説、アメリカ滞在説などが噂された。が、真相は金正日の指令により、北朝鮮に拉致されたのだった。

北朝鮮による韓国人拉致や拉致未遂事件は、このほかにも'77年7月、フランス在住の高名なピアニスト白建宇、尹静姫夫妻と生後5ヵ月の娘の一家3人の拉致未遂、'79年6月の高校教師拉致（北朝鮮は亡命と主張）、'95年7月の牧師拉致（同）などがある。

また要人をねらったテロには、韓国の全斗煥大統領一行に対するラングーン事件などがある。'83年10月9日の同事件では、韓国現職閣僚ら21人が死亡した。ビルマ政府は「北」の破壊工作と断定、国交断絶を宣言した。

'71年1月の北朝鮮の工作員によるハイジャック未遂事件では、金相泰が保安官と格闘のすえ取り押さえられたが、事件のため同機は不時着し、一人死亡、16人が重軽傷を負った。

これ以外にも各種施設の破壊もある。しかし北朝鮮自身はそれを否定している。

こうした一連の「北」の工作は、「南」の政治的混乱を意図したラングーン事件などもあるが、金正日の「映画水準の向上のため」という個人的意図も含まれているため、事態をわかりにくいものにしている。

AP／WWP
▲かつて北朝鮮の工作員として8年間の訓練を受けた金賢姫は、1990年4月に韓国政府の特赦で自由の身となり、その後、ＫＣＩＡの嘱託職員となった。

とどめはアメリカの「政治的」圧力だった
一九四一頭を捕獲して最後の船団が帰港
日本、五三年間の南氷洋捕鯨に幕！

▲「第3日新丸」の甲板に引揚げられ、解剖されるミンククジラ。体長は平均9メートル、体重は約7トンある。　土井全二郎

昭和六二年三月一四日午後二時（日本時間）、南氷洋（南極海）での商業捕鯨に終止符が打たれた。世界的な環境保護運動の高まりは、ついに日本を一撃。その背景には、『白鯨』を国民文学とし、前世紀には太平洋の鯨を捕りつくしておきながら「反捕鯨」の急先鋒に転じた、アメリカの圧力があった。

不当な捕鯨禁止に鯨捕りたちの無念

「この事態（南氷洋捕鯨事業の中止）は、過去一〇年余にわたり反捕鯨勢力のもとに屈服を余儀なくされたこと、特に米国の対日漁獲割り当てを人質とした卑劣な威しに屈した政府の漁業政策に対し、我我は強く抗議する」

昭和六二年四月一三日、捕鯨母船「第三日新丸」（二万三一〇〇トン）は最後の航海を終え、東京湾に戻った。これは、その船上で読み上げられた鯨捕りたちの無念の思いをこめた決議文である。

「第三日新丸」とキャッチャーボート四隻、そして総数二三三人の乗組員からなる、日本最後の捕鯨船団が横浜港から南氷洋に向かったのは前年の昭和六一年一〇月末、翌一一月二六日から操業に入っていた。そしてこの年三月一四日、目標枠であるミンククジラ一九四一頭を捕獲。

昭和九年の母船式捕鯨の開始以来、第二次大戦をはさんで五三年――大シケ、吹雪、すさまじい寒気との戦いが終わった。

「毎年捕獲頭数を減らされ、悔しい思いをしていましたが、最後の捕鯨ということで、操業海域を広げ、それまで手をつけなかった〝穴場〟のロス湾に入りこんだところ、立派なミンククジラが海面に群がっていました。シロナガスクジラなどは減っていたが、なぜこんなにミンククジラがいるのに捕鯨が禁止になるのか、ただただ唖然とするばかりでした」

こう語るのは、この時の漁撈長・谷藤繁氏（現・六三歳）である。季節労働者である鯨捕りたちの平均年齢は約四六歳。再就職の道はけわしく、船主側が行った夏期就労希望調査では、「会社斡旋、社命を待つ」「運転手、大工などのアルバイトをする」などの回答が多数を占めた。

また、南氷洋捕鯨の撤退により、鮎川（宮城）、太地（和歌山）などの沿岸捕鯨地も、窮地に追いこまれた。日本政府の自主規制が敷かれ、ミンククジラ三二〇頭、ニタリクジラ三一七頭などの総枠が各捕鯨基地に割り当てられた。往時の活況は姿を消したが、今も沿岸捕鯨は細々と続けられている。

環境保護団体の圧力で騒然としたIWC総会

〝海洋国〟日本の食生活にとって鯨は貴重な蛋白資源であった。しかも油は灯火用、内臓や骨は肥料用に……とすべて利用された。とりわけ終戦直後の食糧危機を救い、日本人の食卓をうるおしてきたのである。

昭和三七年、日本は一一船団を繰り出し、捕鯨の最盛期を迎えたが、当時IWC（国際捕鯨委員会）の捕鯨規則は、一万六〇〇〇頭を捕鯨各国の総捕獲頭数と定めた総枠規制方式をとっていた。そのため「捕鯨オリンピック」と称された捕獲競争が続き、大型鯨種であるシロナガスクジラなどの減少が指摘されていた。

▶南氷洋での最後の商業捕鯨にあたる船団。鯨を横抱きにして、キャッチャーボートが母船「第3日新丸」へと向かう。　共同通信社

▲最後の航海を終え、4月13日、東京港大井埠頭に帰港した「第3日新丸」。捕鯨中止に、抗議の垂れ幕がかかる。　共同通信社（2点とも）

しかし、昭和五五年頃になると、アメリカの「グリーンピース」などの反捕鯨団体による工作が活発化し、反捕鯨勢力がIWCの多数を占めて事態は一変する。IWCは年ごとに捕獲禁止鯨種、国別の捕獲頭数を決定する新方式を採用し、厳しく捕鯨を制限していった。

昭和五七年七月一九日、イギリスのブライトンで開催された第三四回IWC総会の会場周辺は騒然たる雰囲気に包まれた。「日本は捕鯨から手を引け」のプラカードや横断幕が林立、日本人に見立てた人形や日の丸の旗が、アメリカ、イギリスなどから押し寄せた環境保護団体によって焼き打ちされる一幕もあった。そしてIWC総会は、賛成二五、反対七、棄権五で商業捕鯨全面禁止を採択した。

日本政府はIWCに「異議申し立て」を行い、捕鯨継続の権利を行使した。しかしこれに対し、米国二〇〇カイリ水域内の対日漁獲割り当てを削減するとアメリカ政府が圧力をかけたため、日本は、捕鯨禁止へと追いこまれたのである。

「アメリカが反捕鯨の急先鋒となったのは、ベトナム戦争での枯葉剤作戦、つまり地球環境の破壊に対する厳しい国際世論をかわすためだったと言われています。アメリカには自然保護、動物保護を唱える団体が多く、彼らの声を無視しては、上院・下院選挙で票を集めることができなかった。そのためクリーンなイメージを振りまいて、〝反捕鯨〟を叫び、捕鯨国に政治的圧力を強行したのです」

こう語るのは、海洋ジャーナリストの土井全二郎氏である。

その後、日本は国際捕鯨取締条約第八条の科学的調査条項を根拠に、昭和六二年一二月からいわゆる調査捕鯨を開始する。そして南氷洋の鯨資源データを収集、六三年には、「七〇万頭存在する健全な資源」であることがIWCに報告され承認された。商業捕鯨全面禁止決議が採択された五七年当時、推定三〇万頭だったものが、この六年で倍以上確認されたのである。その後もふえ続けているのは確実で、「今ではかつての不条理な反捕鯨の雰囲気もゆるみ始め、条件つきとはいえ商業捕鯨の再開が期待できる状況も生まれている」（土井氏）という。

▶昭和五七年六月二五日、和歌山県太地町で捕鯨存続現地総決起大会が開かれた。しかし、七月、英ブライトンでのIWC総会は、商業捕鯨全面禁止を可決。

女たちの肖像
スポンサーの株まで急上昇 〝キョンキョン〟小泉今日子 CMの女王として超人気！

稲葉真弓

好感度ナンバーワンのタレントとして知られるKYON^2（キョンキョン）こと小泉今日子（二一）が、〝CMドル＝CMの女王〟としてブラウン管を席巻したのがこの年。二月五日号の「週刊文春」は「ついに小泉今日子のCMギャラが五〇〇〇万円を突破」と、その人気ぶりを伝えている。

この年彼女が登場したCMは、資生堂のスーパーマイルドシャンプー、味の素のクノールカップスープ、三菱電機のエアコン「霧ケ峰」などがあるが、CM放映後、スーパーマイルドシャンプーは年間五〇〇〇万本の予定だったのが、一億本も売れる勢い。「霧ケ峰」も翌年から売り上げは二〇パーセント増、クノールカップスープにいたっては、CMで使われた台詞「見逃してくれよ！」が流行語になったほか、CM企業の株人気が急上昇するという〝コイズミ現象〟をもたらした。

彼女のCMの特徴は、その〝発言〟のメッセージ性にある。「コイズミ、今日からこれをシャンプーと言いマス」（マイルドシャンプー）に見られるように、自分を「コイズミ」と突き放した言い方や、パンチの利いた口調、徹底して商品と遊ぶポップな姿勢が購買意欲を刺激、一九八〇年代から九〇年代にかけて急肥大した消費社会のニーズにぴったりとマッチしたのである。

昭和四一年、神奈川県厚木市生まれ。三人姉妹の末っ子の彼女は、子どもの頃からいつも飛び跳ねているような性格だったことから、今日子をもじり「キョンキョン」と呼ばれていた。芸能界入りは、中森明菜、シブがき隊などがデビューしアイドルの当たり年と言われた五六年、中学三年の時。

軽い気持ちで応募した日本テレビの「スター誕生」で優勝、翌五七年、「私の16才」で歌手デビューをして以来、「渚のはいから人魚」「迷宮のアンドローラ」など次々とヒットを飛ばし、大学の学園祭に引っぱりだこのアイドルとなった。

▲〝元気さ〟で'80年代のアイドルに。

平成七年二月には、普段着姿で俳優の永瀬正敏との結婚を発表、人気タレントらしからぬ〝ジミ婚〟が話題を呼んだ。CMのヒットメーキングガールとは別に、女優としても、平成元年には映画「快盗ルビイ」で毎日映画コンクール主演女優賞を受賞。平成九年にはエッセー集を出版したほか、初の舞台「紙のドレスを燃やす夜」にも挑戦。最近では今年の正月映画、山田洋次監督の「虹をつかむ男　南国奮斗編」に出演、ひと皮むけたおとなの顔を見せた。

勝者・敗者
クールな「怪物」が泣いた！ さまざまな物議を醸して江川卓、引退決意の〝一球〟

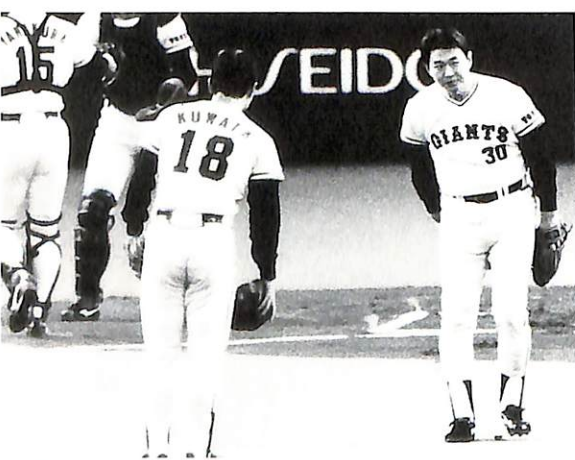
阿部珠樹

九月二〇日、広島市民球場での広島―巨人戦。江川卓（三二）は渾身の力をこめた速球を投げこんだ。だが、その球にはかつて「怪物」と呼ばれた頃の破壊力は消えていた。打席に立つ小早川毅彦（二五）のバットが一閃する。打球はまっすぐ伸びて、ライトスタンドに突き刺さった。サヨナラ・ホームランだった。がっくりと膝をついた江川はしばらく動けなかった。ひと呼吸おいてようやく立ち上がったが、その目には、うっすら涙が浮かんでいた。あのクールで、人前ではけっして感情をあらわにすることのなかった江川が泣いたのだ。

日本シリーズも終わった一一月一二日、江川引退。ファンは、二ヵ月前の涙の意味を知った。全力をこめて投じた速球を、小早川にスタンドまで運ばれた時、江川は引退を決意したというのだ。もう、自分にはかつてのような投球はできない。涙は、その限界をいやというほど知らされたあかしだった。数年前から「百球肩」などと揶揄され、怪物らしさが影をひそめていた江川だったが、翌年オープンする東京ドーム球場のマウンドに立ちたいという気持ちは強く、それが選手生活の支えでもあった。しかし、はっきり突きつけられた「衰え」という事実の前には、その希望も捨てざるをえなかったのだ。

高校時代から怪物の名をほしいままにし、昭和五三年の入団をめぐる一連の騒動では日本中を敵にまわしながら、「冷静にやりましょう」とうそぶいて見せた江川。通算一三五勝七二敗の成績以上に、熱血を愛する日本の野球界に「クール」という新しいスタイルを定着させた選手として、江川は、多くの人にとって気になる存在だった。

引退の会見でも、肩の治療のために打った中国針が逆効果になったと発言し、一部の反発を招いた。その、妙にいいわけめいた発言は、いかにも江川らしかった。

いずれにしても、入る時も、出る時も、これだけさまざまな物議を醸した選手はいないし、これからも出ないだろう。

▶昭和六三年三月の対阪神オープン戦で一球だけ登板し、桑田にマウンドを譲った江川。　共同通信社

ニュース・ファイル

1987

フォト＋日録で再現する365日

年頭初めて一ドル＝一五〇円を突破した円高が、年末とうとう一二一円台にまで達した。JRが誕生し、電話・タバコに次ぐ民営化がなされたが、膨大な赤字は今なお残る。そして、土地に絵画にと、バブルに踊る足元を、米国のブラック・マンデーがすくった。

◀**売上税反対！（3月）**中曽根首相が導入を決定すると、国会内外で反対の大合唱となった。写真は8日、東京・代々木公園に16万人を集めて開かれた反対集会。結局、廃案となったが平成元年、消費税と名を変えて実施。

共同通信社

時事通信社

◀**自民党幹事長・竹下登、門前払い（1月1日）**東京・目白台の田中角栄元首相邸を、総裁選立候補の挨拶に訪れたが、入邸を断られた。二人の関係は、2年前、竹下が創政会を結成、元首相が脳梗塞で倒れて以来、悪化していた。

▼**関西国際空港着工（1月27日）**騒音問題を抱える大阪国際空港に代わり、世界初の海上空港として大阪湾南部泉州沖に建設。写真は29日に開設した現場司令塔。1兆4000億円の工費で平成6年に開業した。

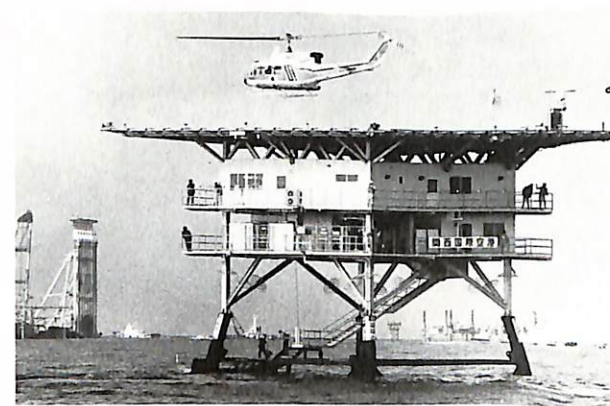
読売新聞社

共同通信社

▶**マラドーナ、妙技（1月24日）**ユニセフ40周年記念スーパーサッカー、南米選抜対日本リーグ選抜に出場。東京・国立競技場を埋めた観衆は、スーパースターの一挙一動に酔った。

▼**「ズ・ダン号」、福井漂着（1月20日）**北朝鮮乗組員11人が韓国亡命を希望し、日本政府は極秘裏に台湾経由で亡命させた。北朝鮮は態度を硬化し、日朝関係がぎくしゃくする。

共同通信社

読売新聞社

◀**国公立大「新入試元年」（1月12日）**大学をA・Bに分け複数受験を可能にした新制度の、2次試験願書の受け付け開始。競争率倍増で、10万人が門前払いとなった。写真は東京・駿台予備校で。

▶**胡耀邦、総書記辞任（1月16日）**北京大生らの民主化要求デモへの弱腰の対応を、自己批判。趙紫陽首相が総書記代行となった。写真は3月25日、辞任以来初めて公式の場に姿を見せた胡（右）。

ロイター／サンテレフォト

昭和62年1月

- 1（木）●老人保健法改正施行。医療費自己負担が倍増。●竹下登、田中角栄邸への年始訪問で門前払い。
- 2（金）●紅白歌合戦視聴率が初の六〇％割れと判明。
- 3（土）●政府、米国産オレンジの輸入自由化を決定。
- 4（日）●下水道への光ファイバー敷設ロボット公開。
- 5（月）●米連邦預金保険公社、前年の倒産銀行数一三八行で大恐慌以来最高と発表。
- 6（火）●ペルシャ湾で日本のタンカー被弾。乗員無事。
- 7（水）●経団連、食品工業二三業種の空洞化を警告。
- 8（木）●電力中央研がコンピュータ利用の無菌無農薬水耕栽培実験で〝三毛作〟に成功、と新聞に。
- 9（金）●日銀、過去最高二五億ドルのドル買い介入。
- 10（土）●自治省、愛媛県選挙管理委員会に選挙人名簿の販売中止を指導。
- 11（日）●専修学校の三割が誇大募集広告と総務庁調査。
- 12（月）●専用ロッカーで受け渡す男性下着専門無人クリーニング店が東京に開業、と新聞に。
- 13（火）●日産、一万台限定生産車Be-1の予約開始。
- 14（水）●ゆとりある老後の生計費は夫婦で月二五万円、年金では一〇万円不足と経企庁試算。
- 15（木）●城山三郎訳『ビジネスマンの父より息子への30通の手紙』刊行。
- 16（金）●中国共産党の胡耀邦総書記、辞任。
- 17（土）●厚生省、日本で初の女性エイズ患者を認定。●沖縄県国頭村の住民一五〇人、米海兵隊訓練場建設阻止闘争で米兵と衝突。
- 18（日）●労働組合組織率は二八・二％と労働省発表。
- 19（月）●円急騰、初めて一ドル＝一五〇円を突破。
- 20（火）●北朝鮮の小型船「ズ・ダン号」が福井漂着（2月8日乗員一一人は韓国へ亡命）。
- 21（水）●愛知県師勝町の小学校で宿題忘れた心臓病の女児が「罰マラソン」中に倒れ死亡。
- 22（木）●和歌山県知事、田辺市の「天神崎の自然を大切にする会」を全国初の環境保全法人に認定。
- 23（金）●文相、塾に対抗し学校での補習推進を提言。
- 24（土）●閣議、防衛費GNP比一％枠撤廃の基準決定。
- 25（日）●東京私立中高協会が私立校新設中止を要望。
- 26（月）●定速走行装置つき日産フェアレディZで事故の運転者、設計者を業務上過失傷害罪で告訴。
- 27（火）●関西新空港、大阪湾泉州沖で着工。
- 28（水）●野田愛子、女性初の高裁長官（札幌）に就任。
- 29（木）●国有地転売禁止を一〇年に延長と大蔵省決定。
- 30（金）●東証平均株価が初めて二万円を突破。
- 31（土）●国保赤字の市町村は四四六と厚生省調査。

共同通信社

◀**防衛費1パーセント枠撤廃批判(2月14日)** 昭和62年度予算のGNPに対する「歯止め」突破が確定。東京・日仏会館で超党派シンポジウムが行われ、自民党・鯨岡兵輔らも反対。

共同通信社

▼**霊感商法の相談窓口開設(2月13日)**「悪い因縁を払う」などと言われ、高価な多宝塔などを買わされる被害が続出。弁護士が連絡会を発足し被害者救済に乗り出した。

読売新聞社

▲**東京国際マラソンで谷口浩美(26)「粘走V」(2月8日)** 39キロ地点でトップに立ち、2時間10分6秒ながら優勝候補の中山竹通、メコネン(エチオピア)を振り切って優勝。

朝日新聞社

▲**高松宮宣仁親王、逝去(2月3日)** 昭和天皇の弟で82歳、肺癌だった。戦時中は海軍参謀として兄を補佐、戦後は社会福祉など多方面で活躍した。写真は10日、東京・豊島岡墓地の本葬での宮妃・喜久子さん。

▼**リニアモーターカー、世界最速(2月4日)** 国鉄が宮崎の実験線で、技師らを乗せ時速400キロを達成。後にJRが引き継ぎ、平成9年には超高速鉄道完成をめざし、本格走行実験を開始。

読売新聞社

▶**トントンの日光浴(2月16日)** 前年に誕生、大人気となった赤ちゃんパンダも生後9ヵ月のわんぱくざかり。母親ホアンホアン(左)と、初めて日光浴を楽しんだ。

東京動物園協会提供

昭和62年2月

1(日)●北海道の広尾線廃止。「幸福」「愛国」駅保存。
2(月)●都、エイズ対策で理容組合に剃刀消毒要請。
3(火)●政府、防衛秘密は六〇年末五七九三件と公表。
4(水)●政府、売上税法案を国会に提出。
●江東区の国鉄貨物駅用地、公示価格の一〇倍、二〇〇億円で落札(7日、江東区長が抗議)。
5(木)●名古屋大、戦争目的に加担せずと憲章制定。
6(金)●国際コンピュータ・グラフィック会議CM部門で日本の東洋リンクスがグランプリ。
7(土)●伊丹十三監督「マルサの女」封切。
8(日)●兵庫県警、山口組と一和会の抗争終結を発表。
9(月)●NTT株式上場(翌日、初値一六〇万円)。
10(火)●阪急球団、キャンプ地の高知で監督・選手らにエイズ血液検査実施。
11(水)●富士市の精神修養施設で火災。三人焼死。
12(木)●自動車教習にオートマ車使用義務化と決定。
13(金)●新日鉄、高炉五基休止など合理化案を提示。
●スウェーデンから輸入のトナカイ肉から放射能が検出され、厚生省が送還を指示。
14(土)●久慈市で日本初の地下石油備蓄基地を早ければ四月にも着工、と新聞に。
●霊感商法被害救済担当弁護士連絡会、結成。
15(日)●NTTの時報に初めて一秒の狂いと判明。
16(月)●国鉄新会社、二〇万五〇〇〇人採用。北海道・九州の国労組合員ら六八〇〇人を不採用。
17(火)●海上保安庁の救援機が福岡・佐賀県境背振山に墜落。初の女性通信員含む五人が死亡。
18(水)●太陽神戸銀、三〇〇〇万円の教育ローン開始。
19(木)●国産初の海洋観測衛星「もも1号」打ち上げ。
20(金)●政府、エイズ対策関係閣僚会議を設置。
21(土)●住友製薬、インターフェロンα型の製造開始。
22(日)●G7、黒字国の内需拡大(低金利政策)と為替水準維持を確認(ルーブル合意)。
23(月)●東京で国連環境特別委員会開催(～27日)。
24(火)●流通業界や労働団体が税制国民会議を結成。
25(水)●東京地裁、テレビゲーム「ドラゴンクエストII」の謎解き掲載誌は著作権侵害と発売禁止。
26(木)●大阪高裁、中国人留学生のための京都の光華寮を台湾の所有と認定。
●米のタワー委員会、イラン・コントラ事件に大統領の責任を認めた報告書提出。
27(金)●Lサイズの女性靴の需要が急増、と新聞に。
28(土)●厚生省研究班、インフルエンザ集団予防接種は効果に疑問との中間報告をまとめる。

ロイター／サンテレフォト

▲**ベルギー沖でカーフェリー転覆(3月6日)** 乗客543人を乗せ英国に向け出航した直後、突堤に激突、横倒しになった。極寒の海で救出が難航、死者・行方不明135人の惨事となった。原因は浅瀬に乗り上げ、船首の車両出入り口から浸水したためとされた。

共同通信社

◀**東北道で玉突き事故、13台炎上(3月10日)** 下り線の仙台南インター付近で、アイスバーンにハンドルを取られたタンクローリーがスリップして一回転。27台が次々追突し、一人焼死、7人が負傷。

読売新聞社

▲**プールバー流行(3月)** 正月映画「ハスラー2」がビリヤード・ブームを引き起こし、プールバーと呼ばれるカフェバーつきビリヤード場が東京都内に続々登場。写真は、原宿の「ロサンゼルス・クラブ」。

朝日新聞社

▲**水俣病に国・県の責任認める(3月30日)** 患者115人が起こした第3次訴訟で、熊本地裁が判決。加害企業のチッソを含む3者に6億7400万円の支払いを命じた。写真は、全面勝訴に涙ぐむ家族ら。

共同通信社

▲**カネミ油症訴訟で和解成立(3月20日)** 患者側と鐘淵化学工業が、最高裁の見舞金での和解勧告を受諾。米ぬか油に混入したPCB中毒により1896人の認定患者を出した損害賠償請求は、19年ぶりに終止符。

読売新聞社

▶**浩宮さま「親善外交」(3月14日)** 25日までネパール、ブータン、インドを訪問。前年外交関係が樹立したブータンでは、初の日本の要人となった。ネパールでは念願のヒマラヤトレッキングを楽しみ、チトワン国立公園でゾウに乗られた。

昭和62年3月

1(日)●売上税反対国民集会、二〇都府県で開催。
●中尊寺、瀬戸内寂聴の天台寺住職就任を了承。
2(月)●気象庁、地震活動等総合監視システムを始動。
●銀座セゾン劇場、オープン。
3(火)●輸出船造船受注で韓国が日本抜き一位と判明。
4(水)●横浜地裁、米軍機墜落事故(昭和52年)訴訟で国に賠償命令、米兵の責任は問えずと判決。
5(木)●松下電器・日本楽器・フィリップス社、CD-Vプレーヤーを共同開発と発表。
6(金)●国土政策懇、東京集中批判し分都検討を提唱。
7(土)●三鷹市の中学教師アンケートで女子中学生は「素直さたりず無礼で自己中心的」、と新聞に。
8(日)●参院岩手補選で社会党候補が反売上税で圧勝。
9(月)●外務省、米軍基地の石綿廃棄物は米本土へ持ち帰り処理決定と神奈川県に連絡。
10(火)●沖縄県北谷高校卒業式で日の丸掲揚に抗議し卒業生全員が入場拒否。
11(水)●学術審、動物の苦痛緩和など実験指針報告。
12(木)●東京地裁、粉飾決算のリッカー経営陣に有罪。
13(金)●造船三三社、二五％減産の不況カルテル申請。
14(土)●南極捕鯨に幕。最後の捕鯨船団が帰国へ。
15(日)●高知県でHIV感染の母が帝王切開で出産。
16(月)●女子大生の卒業式は袴姿の復古調、と新聞に。
17(火)●アサヒビール、スーパードライ発売。
18(水)●東京高裁、連続射殺の永山則夫に死刑判決。
19(木)●川崎市で蘭・世界大博覧会、開催。
20(金)●カネミ油症訴訟原告団、鐘淵化学と和解。
21(土)●大阪府警・大阪地検、豊田商事の商法を会社ぐるみの詐欺と断定し、元社長ら五人逮捕。
22(日)●二輪車生産が最盛期の半分に下落、と新聞に。
23(月)●任天堂のファミコン、国内出荷累計が一〇〇〇万台突破。
24(火)●『カラオケ白書』発表。家庭普及率は四・一％。
25(水)●日本医師会、脳死は個体死との中間報告発表。
26(木)●国公立大の門前払いは三万余人と文部省調査。
27(金)●自民党大阪府連、統一地方選の首相遊説拒否。
28(土)●サッチャーが英首相として一二年ぶり訪ソ。
29(日)●千葉県の主婦ら五〇人、東海村まで一〇〇キロを歩く「原発やめんべ行進」に出発。
30(月)●熊本地裁、水俣病第三次訴訟で初めて県と国の責任を認め原告側全面勝訴の判決。
●安田火災、絵画「ひまわり」を五三億円で落札。
31(火)●誘拐された若王子三井物産マニラ支店長、身代金一億五〇〇〇万円と引き換えに解放。

▲リズ、エイズキャンペーンで来日(4月22日)女優で米国エイズ研究財団理事長のエリザベス・テーラー(55)が、エイズ撲滅への協力を呼びかけるために来日。東京都内のホテルで開かれた記者会見で、「無知がエイズを広める」と訴えた。

共同通信社

▶地方選で「マドンナ」旋風(4月)売上税問題で揺れる統一地方選で、「普通の奥さん」候補が大活躍。写真は26日、東京・中野区議選に当選した生活クラブ生協の村守恵子(中央)。

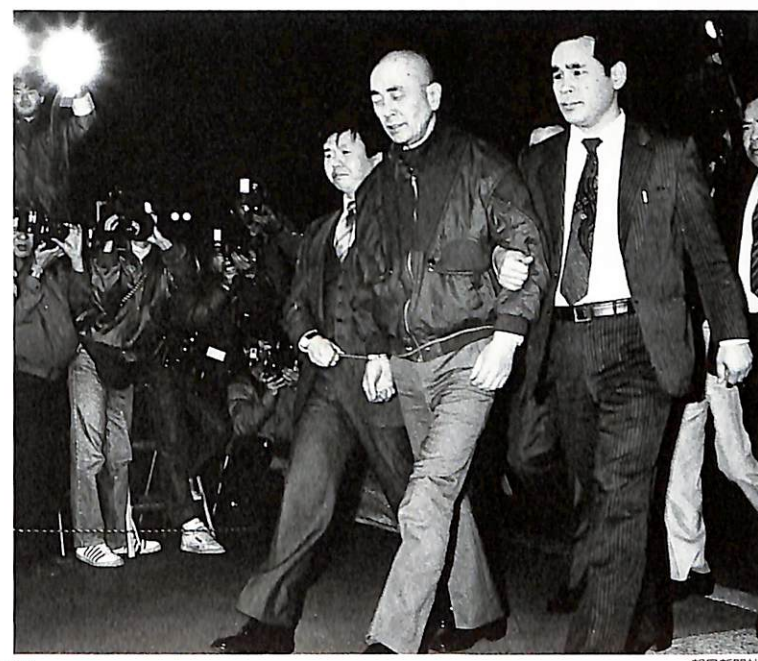
▼「知床の木を伐らないで」(4月14日)資源利用か環境保護かでもめる北海道・知床国立公園で、林野庁が国有林の伐採を強行。写真は身を挺して抗議する反対派の女性。

朝日新聞社

共同通信社

▲JR誕生(4月1日)中曽根内閣の行革の目玉、国鉄の分割・民営化がついに実現、11の新法人と国鉄清算事業団が発足した。しかし37兆円余の債務処理、国労組合員の処遇など課題が残された。

読売新聞社

▼ニセ1万円札事件の主犯逮捕(4月13日)東京・南青山のゴミ箱などでニセ札が見つかり、偽造事件が発覚。この日グループの黒幕、童話作家の武井遵(49)を逮捕。

朝日新聞社

▼ホテル・ニュージャパン火災で横井英樹に禁固3年(5月20日)東京地裁は、死者33人にもおよんだ悲惨な事故の経営者責任を厳しく追及。写真は保釈された横井(73)。

朝日新聞社

昭和62年4月

- **1**(水)●JR各社開業。国鉄清算事業団、発足。
- **2**(木)●前年の献血者数が初めて減少と厚生省。
- **3**(金)●島根・広島県境で米軍機からミサイル落下。●世界保健機関(WHO)、禁煙勧告宣言。
- **4**(土)●東京にテニスコートの有明コロシアム完成。●都内私立女子高生の九割が毎朝洗髪と新聞に。
- **5**(日)●技能労働者が約五二万人不足と労働省調査。
- **6**(月)●幼稚園から高校までの教育費は公立で一五九万円、私立で七六三万円と東海銀行調査。
- **7**(火)●高エネルギー物理学研究所、世界最大の電子・陽子衝突型加速器トリスタンの完成式。
- **8**(水)●新韓民主党の金大中・金泳三が脱党(5月統一民主党結成。11月金大中は平和民主党)。
- **9**(木)●中核派最高幹部・陶山健一、豊川市で逮捕。
- **10**(金)●てぐす(釣り糸)公害調査で九三%の調査地で野鳥被害の危険と日本鳥類保護連盟発表。
- **11**(土)●警視庁、中・高生に酒提供の飲食店二六店摘発。
- **12**(日)●統一地方選挙(知事・道府県議選で自民党大敗。26日市長選など)。
- **13**(月)●中国とポルトガル、マカオの一九九九年返還協定に北京で調印。●一万円札大量偽造事件で童話作家を逮捕。
- **14**(火)●林野庁、知床国立公園の森林伐採を強行。
- **15**(水)●工業技術院有志五七三人がSDI(戦略防衛構想)反対署名。
- **16**(木)●全日空、初の日中定期航路を開設。
- **17**(金)●米、半導体協定違反で日本のパソコン・テレビなどに一〇〇%報復関税を賦課。
- **18**(土)●ペットフード業者急増、美容食までと新聞に。
- **19**(日)●前年の切り花の総輸入量、史上最高と新聞に。
- **20**(月)●風間深志、オートバイで初の北極点到達。
- **21**(火)●新行革審(会長・大槻文平)、発足。
- **22**(水)●エリザベス・テーラー、エイズ撲滅キャンペーンのため来日。●NTT株、三一八万円の瞬間最高値をつける。
- **23**(木)●原衆院議長調停で売上税法案が事実上廃案。
- **24**(金)●最高裁、サンケイ意見広告訴訟で共産党主張の反論権を否定し上告棄却。
- **25**(土)●首都圏に核シェルター一〇〇基埋設と新聞に。
- **26**(日)●統一地方選。生活クラブは一八人全員当選。
- **27**(月)●自動車輸出が四年ぶり前年下回る、と自工会。
- **28**(火)●東京都、土地取引規制の届け出面積引き下げ。
- **29**(水)●チャーリー・シーン主演「プラトーン」封切。
- **30**(木)●警視庁、ココム違反容疑で東芝機械を捜索。

証言・あの日この日
岩城宏之(54)

1月3日(土)〈失くしたペンは、シェーファーだった。濃いブルーの太めで、書き易かった。／正月の3日に渋谷のデパートに行った。万年筆がこんなに高いものだとは知らなかった。／シェーファーにこだわって、2万5千円のを買った〉(岩城宏之『岩城宏之のからむこらむ』)

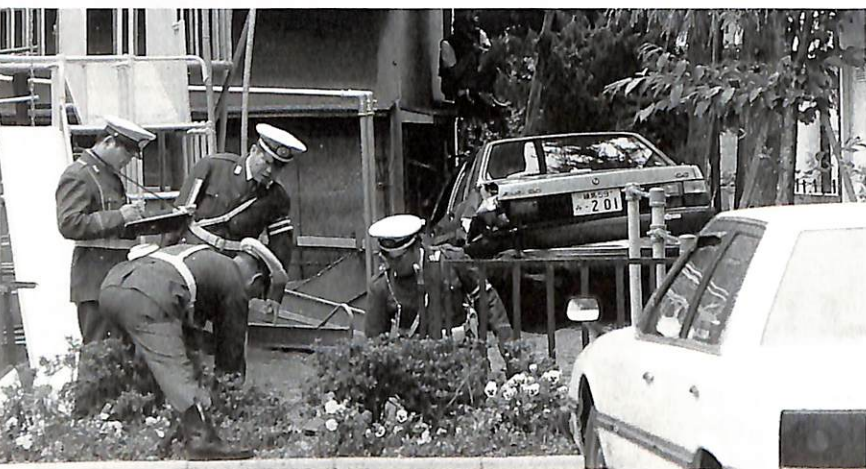
指揮者・岩城宏之は、お気に入りのシェーファーの万年筆を新幹線の中で失くしてしまった。6年前から愛用し、一緒に地球を30回以上まわった同志だったから、すぐ新しいものを買いに行く気になれなかった。しかし、年が明けて、失くしたペンへの〈喪には充分服した〉気になり、この日新しいペンを買いに行く。岩城は、この頃はまだ万年筆による手書きにこだわっていたのだ。が、その岩城ですら、半年後にはあっさりワープロに転向する。すでにワープロ時代が始まっていた。(山崎行太郎)

共同通信社

◀ホーナー、ど肝抜く3連発(5月6日)元大リーガーの本領発揮、対阪神戦3連続アーチで前日のデビュー以来、6打数4本塁打となった。にわかにヤクルト人気が沸騰し、「ホーナー効果」と言われたが、結局、31本塁打。

朝日新聞社

▼「赤の広場」にフィンランドからセスナ機(5月28日)ソ連防空網をくぐり抜け強行着陸。後に「平和の戦士」を名乗る西独のアマチュアパイロット(19)と判明。ソ連最高裁は不法侵入などで労働刑を下したが、翌年釈放。

▼オートマチック(AT)車、暴走事故多発(5月)運転者の操作ミスとされていたが、装置の欠陥が判明。メーカーは安全対策に乗り出した。写真は27日、東京・豊島区の事故現場。

共同通信社

▶超伝導ブーム(5月20日)東京・池袋で開かれた「87新素材展」の目玉は、極低温で電気抵抗が消え、磁石と反発して物体が浮き上がる超伝導体実験。前年来のブームだった。

朝日新聞社

共同通信社

ロイター/サンテレフォト

◀帝銀事件の死刑囚、獄中死(5月10日)昭和23年に銀行員集団毒殺の犯人とされ、39年間の獄中生活を送り、無実を訴え続けていた平沢貞通(95)が、肺炎のため八王子医療刑務所で死去。

昭和62年5月

- **1**(金)●長者番付発表。一〇〇位中七二人は土地長者。
- **2**(土)●警察庁、暴力団の国際化に対応し外国捜査機関とのホットライン設置を決定。
- **3**(日)●西宮市の朝日新聞阪神支局に覆面男が侵入し散弾銃発砲。記者一人が死亡、一人が重傷。
- **4**(月)●WHO、エイズ患者数五万人、四年後に一〇〇万人突破との推計発表。
- **5**(火)●近衛文隆の学友だった米実業家、プリンストン大に日本人学生対象の奨学金制度を設立。
- **6**(水)●ヤクルト・ホーナー、二試合目で三連続本塁打。
- **7**(木)●米上院財政委員会、日本への敵対条項を含む包括貿易法案を一六対一で可決。
- **8**(金)●長洲神奈川県知事、池子米軍住宅受け入れ案を提示(8月富野逗子市長、民意問うと辞任)。●俵万智『サラダ記念日』刊行。
- **9**(土)●青森県むつ・小川原地区での原野商法被害は四〇億円と救済連報告。
- **10**(日)●相撲協会、土俵にまく塩を自然塩に切り替え。
- **11**(月)●フィリピン上下院選。アキノ派が圧勝。
- **12**(火)●警察庁、IBMのソフト不法複製の会社摘発。
- **13**(水)●JR東日本、首都圏の国電名を「E電」と決定。
- **14**(木)●経済審、新前川レポート提出。規制緩和など。
- **15**(金)●通産省、ココム違反の東芝機械に対共産圏輸出一年間禁止処分と発表。
- **16**(土)●日本電気、米国内でパソコン生産開始と表明。
- **17**(日)●前年の賃金伸び率は過去最低と労働省発表。
- **18**(月)●ビーチバレー初の大会へ協会も本腰と新聞に。
- **19**(火)●横田基地の日本人従業員ら四人、米軍機密資料を中ソに流していたとして逮捕。
- **20**(水)●鹿島建設、冷凍倉庫技術で人工スキー場開発。●東京地裁、ホテル・ニュージャパン火災事件の横井英樹に禁固三年の実刑判決。
- **21**(木)●国際日本文化研究センター、設置。
- **22**(金)●黒川紀章ら、東京湾に人工島建設を提言。
- **23**(土)●トウガラシなどの辛味が脂質燃やすと学会で。
- **24**(日)●初の輸入カリフォルニア産チェリー、成田着。
- **25**(月)●昭和大理事長、経費三四億円を株流用で辞任。
- **26**(火)●前年の出国者は五〇〇万人突破と『観光白書』。
- **27**(水)●北勝海が横綱、小錦が外国人初の大関に昇進。
- **28**(木)●フィンランドから飛来のセスナ機がモスクワ赤の広場に着陸(30日、ソ連国防相ら更迭)。
- **29**(金)●政府、総額六兆円の緊急経済対策を決定。
- **30**(土)●前年のODAはドル表示四八%増と政府発表。
- **31**(日)●劇団四季「キャッツ」公演、一一二四回で幕。

▲伊下院議員にポルノ女優(6月16日)急進党から立候補したチチョリーナ(本名イローナ・スターレル)が当選。「反核、反原発、フリーセックス」を掲げた。

▼沖縄住民、人間の鎖で「反戦・反基地」(6月21日)手を握り合ったのは労組員、子ども、主婦ら2万5000人。周囲17キロ、極東最大の米軍嘉手納基地を取り囲んだ。

▲韓国で民主化加速(6月26日)政府は、憲法改正を求める在野勢力のデモ行進阻止のため全土を規制したが、激しい抵抗に遭った。29日、与党・民正党は大統領直接選挙制など譲歩案発表。

▶郷ひろみ・二谷友里恵、挙式(6月12日)人気歌手と俳優の二谷英明・白川由美の一人娘(22)の結婚とあって、テレビ中継の視聴率は47パーセント。披露宴で新郎(31)が30分スピーチ。

▼特別養護老人ホームで火事(6月6日)東京・東村山の松寿園で17人が焼死。寝たきり老人や痴呆性老人などを介護する特別養護老人ホームの防火管理体制、避難施設などの不備があらためて問題化。

▲北海道の層雲峡崩れる(6月9日)高さ約60メートル、幅約80メートルにわたって岩崩れ。国道39号線を埋め、車2台を押しつぶした。二人死亡。修学旅行中の女高生ら6人も、巻きこまれて負傷した。

昭和62年6月

1(月)●歌舞伎ソ連公演、二六年ぶりに行われる。
2(火)●パリで古代日本の「埴輪展」開催。
3(水)●東芝など三社、家庭用パン焼き器発売と発表。
4(木)●柳谷外務事務次官、光華寮問題批判した鄧小平は「雲の上の人」と発言(18日辞任)。
5(金)●東大寺、仁王像阿形は快慶作と発表。ファイバースコープによる調査で墨書銘を発見。
6(土)●東村山市の老人ホームで火災。一七人焼死。
7(日)●オペラ歌手・田谷力三、米寿記念コンサート。
8(月)●国税庁、元豊田商事社員の源泉所得税五二〇〇万円の返還を破産管財人に通告。
9(火)●大証、初の株式先物「株先50」の取引開始。
●総合保養地域整備法(リゾート法)公布施行。
10(水)●フライデー乱入事件でビートたけしに執行猶予二年つき懲役六月の判決。
11(木)●日本電業、国鉄民営化の影響で初の大型倒産。
12(金)●全農中央委、三一年ぶりに米価引き下げ容認。
13(土)●プロ野球広島・衣笠祥雄、連続出場二一三一試合の世界新(9月21日引退表明)。
14(日)●マドンナ、大阪球場で来日初公演。
15(月)●生活保護費の不正受給額一〇億円と厚生省。
16(火)●ウタリ協会、国連先住民会議に初参加と決定。
17(水)●新日鉄・三井物産・電通が国際会議や見本市請け負いの国際コンベンション会社設立と発表。
18(木)●全林野青森地方本部、八幡平地域でのブナ原生林伐採反対を決定。
●カセットブック続々、人気上昇中と新聞に。
19(金)●日航機墜落事故(昭和60年)はボーイング社の隔壁修理ミスと運輸省報告。
20(土)●浜松市で暴力団追放運動の弁護団長が暴力団員に刺され重傷を負う。
21(日)●沖縄嘉手納基地で二万五〇〇〇人が人間の鎖。
22(月)●新電電三社、NTTより二割安の料金申請。
23(火)●前年新生児は丙午のぞき最低と厚生省統計。
●米の対外債務が前年倍増の二六三六億ドルに。
24(水)●東京地裁、乱暴されたホテトル嬢が客を刺殺した犯行撮影のビデオを非公開法廷で上映。
25(木)●森永由紀、南極観測隊初の女性隊員に決定。
26(金)●日本の外貨準備高が西独抜き世界一とIMF。
27(土)●在京一二私立大、大阪で初の進学相談会開催。
28(日)●石綿使用の川越市教職員住宅からの集団転居者が補償求めアスベスト被害を考える会開催。
29(月)●石巻市で鯨肉二二・五トンを密輸入した会社摘発。
30(火)●閣議、第四次全国総合開発計画を決定。

「現場」を歩く 新宿

地上げ屋の"ダンプ突入"にも負けなかった「大山ランドリー」の一〇年

山本徹美

▲大通りに面した空き地の奥に、10年前と変わらぬたたずまいで営業する大山ランドリー。現在は地権者も大家も、狂乱地価の頃とは異なっている。 但馬一憲

昭和六二年六月一五日午前三時頃、東京都新宿区左門町にあるクリーニング店「大山ランドリー」にダンプカーが後ろ向きで突入、一階店舗を大破させた後、運転手が逃走する事件が発生した。

その時刻、一階奥には店主の渡辺賢正氏(当時・四六歳)と息子、二階には百合子夫人と娘二人が就寝中。店内のプレス機が車の侵入を阻止しなければ轢殺されていた。そのプレス機が壊され、修理の間約一ヵ月間休業を強いられた。

首都圏が狂乱地価に見舞われたのが六〇年末頃から。同時期、「大山ランドリー」周辺の土地約一〇〇〇平方メートルが港区内にある不動産業者によって買い占められた。「大山ランドリー」は大通り(外苑東通り)に面した三軒長屋の一軒。地権者にしてみれば同店は目の上のこぶ。六一年一月頃から地上げ屋が執拗な立ち退きを迫る。店頭においた鉢植えをたたき割り、立ち小便。犬や猫の糞をばらまき、夜中に大騒ぎをして安眠妨害、「火をつけられても知らないぞ」などといやがらせ、脅迫を繰り返していた。渡辺氏は地上げ業者らを刑事告発。同年九月二九日、東京地裁の新矢悦二裁判官は、「地上げ屋による立ち退き強要がばっこしている折でもあり、このような風潮を助長する本件犯行を軽視しえない」と、右翼団体幹部(三一)に懲役一年六月の実刑判決、ダンプを運転した実行犯二人にも有罪判決を言い渡した。修理代、休業補償は、一〇〇万円余で示談。

職人気質は残った

平成一〇年一月、「大山ランドリー」を訪ねてみた。ダンプの突っこんだ跡は修繕ずみで、店舗前の空き地には洗濯物配達用のバイクが停めてあった。

「地価の下落や脱税容疑などで地上げ屋はつぶれ、ここへは来ません。露骨ないやがらせはなくなりました」(渡辺氏)

立ち退きの件は今も継続中とあって、代理人の牧野二郎弁護士に事情を聞く。

「渡辺さん宅は借家で、その借家権を地上げ屋などが強引に金銭で買い取ろうとしたのが発端でした。渡辺さんはワイシャツ一枚でもきちんと自分が洗濯して届ける、という職人気質の持ち主なんです。現状と同様に仕事ができる移転先を確保してくれるのなら話に応じてもいい、との考えだった。それが無視された」

クリーニング店を開業するためには保健所の許可が必要で、機械音を考慮すると集合住宅の中はむずかしく、一戸建てが望ましい。その条件を満たす転居先を用意するとなると時間も金もかかる。

「利ざやだけで何千万、何億と巨利をむさぼる地上げ屋には、一枚一〇〇円の洗濯物にも手抜きをしない渡辺さんのこだわりなど、とうてい理解できなかった」

今や、虚業は消滅し、小さいながらも職人の店は営業を続けている。痛快だ、と私は思う。洗濯物取次店に変わった同業者も「大山ランドリー」に洗濯物をまわすなど応援しているという。

◀昭和六二年六月一五日未明、ダンプカーに突っこまれ大破した一階店舗。プレス機も壊れた。 毎日新聞社

ベストセラー

安部譲二の異色デビュー作『塀の中の懲りない面々』

この年、安部譲二が『塀の中の懲りない面々』でデビュー、たちまちベストセラー作家になった。

急速に変化していく時代であっても、権力の用意する檻の様子は変わることがない。〝捕まえてあるのは人間で、捕まえているのは看守〟なのだから、外で戦争が起ころうが、民主主義が謳歌されようが、変わりようがないというのだ。塀の外では通用しなくなった言葉も生き続けている。ごはんを入れる器の「物相」、食べる行為を表す「喫食」、何であれ官に願い出る時に使う「願箋」といった言葉だ。そしてここには、実にさまざまな人生を背負った人々がいる。たとえば、赤軍の〝兵士〟であった城崎勉である。休憩時間にもひたすら走って、来るべき時に備えて肉体を鍛えていたが、やがて、〝同志たち〟の日航機ハイジャックによる奪還行動で、白昼堂々と〝脱獄〟したのであった。

一方、時代の波をつかもうとするビジネスマンにとってかっこうの手引書が人気を呼んだ。キングスレイ・ウォードの『ビジネスマンの父より息子への30通の手紙』で、作家の城山三郎が翻訳した。若者がぶつかる数々の試練を、どのようにして乗り越えればいいのか。ビジネスマンとしての経験豊かな父親が、手紙の形で的確なアドバイスを送る。新しいタイプの実践的ハウツー本だった。

また、ストレスの多い時代にふさわしい、分厚い健康百科『家庭医学大事典』がこの年発刊された。急速に進歩する医学の情報や、健康と病気に関する情報を求める現代人のニーズにこたえた企画で、以後、家庭医学書の定番と目され、ロングセラーとなった。

●昭和62年のベストセラー

順位	書名・著者・出版社
1位	「サラダ記念日」(俵万智/河出書房新社)
2位	「ビジネスマンの父より息子への30通の手紙」(キングスレイ・ウォード/新潮社)
3位	「塀の中の懲りない面々」(安部譲二/文藝春秋)
4位	「MADE IN JAPAN」(盛田昭夫/朝日新聞社)
5位	「詩集　広布抄」(池田大作/聖教新聞社)
6位	「極道渡世の素敵な面々」(安部譲二/祥伝社)
7位	「別れぬ理由」(渡辺淳一/新潮社)
8位	「塀の中のプレイ・ボール」(安部譲二/講談社)
9位	「ノルウェイの森(上・下)」(村上春樹/講談社)
10位	「62年版頭のいい銀行利用法」(野末陳平・海江田万里/青春出版社)

全国出版協会出版科学研究所

▲「ビジネスマンの父より息子への30通の手紙」(1500円)

▲「塀の中の懲りない面々」(1000円)

▲「家庭医学大事典」(小学館、5800円)

スターと名場面

バブル時代への痛烈な皮肉 伊丹・宮本の「マルサの女」

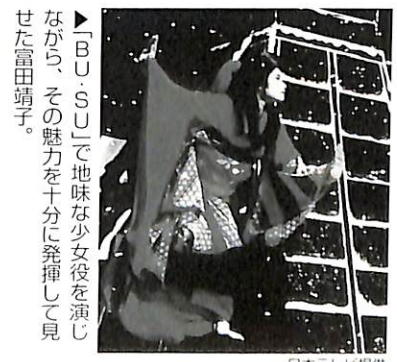
好景気を維持して突っ走る世の中に、皮肉な目を向ける映画が話題を呼んだ。伊丹十三監督の「マルサの女」は女性税務捜査官が主役。脱税してあぶく銭を確保しようとする連中を、スパイもどきの捜査で摘発する様子を詳細に描いた。そのリアルさゆえに、時代の一側面を笑いのめすユーモラスな映画となった。

田舎から東京に出てきたばかりの女子高生が主役の青春映画「BU・SU」(市川準監督)も、時代を鮮やかに切りとって見せた。芸者置屋でアルバイトしながら高校にかようこの少女は、地味で暗い印象を周囲に与えたが、実際には現実に対して真摯に立ち向かって生きる青春まっさかりの少女であり、浮ついた大都市を冷静に見つめていたのである。

また、原一男監督が、奥崎謙三という一人の男を徹底的に追い続けたドキュメンタリー「ゆきゆきて神軍」は、繁栄を謳歌する時代に冷水をあびせかける、パワフルな映画だった。戦争責任をストレートに追及し、国家の意味を問い続ける奥崎謙三のすごさが伝わってきた。

この年、ほかに次のような作品が公開された。かっこ内はおもな出演者。「永遠の1/2」(時任三郎)/「スタンド・バイ・ミー」(リヴァー・フェニックス)/「ハンナとその姉妹」(ウディ・アレン)

伊丹プロダクション提供

◀「マルサの女」で、税務捜査官役の宮本信子(手前右)は、緻密で大胆な演技を展開した。左隣は上司役を好演した津川雅彦。

▼「ゆきゆきて神軍」で描き出された奥崎謙三(左)の執念は、時代への鋭い批判でもあった。

キネマ旬報社提供

▶「BU・SU」で地味な少女役を演じながら、その魅力を十分に発揮して見せた富田靖子。

日本テレビ提供

モノ語り'87

市場の変化をとらえてイメージ一新!「スーパードライ」「アタック」「通勤快足」

◀のらくろが音に合わせて踊り出した　戦前からの人気キャラクター「のらくろ」が、手拍子や音楽など周囲の音に合わせて、手足を動かし踊り出す、不思議玩具「のらくろロック」がタカラから売り出されて注目された。音センサーを内蔵した玩具で、6800円の価格だったが、累計100万個を売るヒット商品となった。

©田河水泡

◀手帳もコンピュータになった　シャープは、プライベートな情報管理の基本となる、電話帳やスケジュール管理、電卓などの機能を装備した「電子手帳PA—7000」を1万9800円で発売した。漢字表示を実現し、約2万語の人名・地名辞書を内蔵していることも大きな特徴だった。さらに用途別ＩＣカードによって機能拡大をはかれるなど、まさにポケットサイズのコンピュータだった。

▲洗剤がコンパクトな容器に入った　花王がこの年4月に発売した「アタック」は、バイオ洗剤と銘うち、それまでの大箱に入った洗剤のイメージを一新した。繊維分解酵素のアルカリセルラーゼに着目、洗浄力を高めただけでなく、使いすぎ防止のための計量スプーンをつけたり、容器の形を工夫するなどして、新しい時代の新しい洗剤としての印象を与えることに成功した。750グラム入り450円などだった。

▶ハイテクによるメガネ拭き登場　東レは、超超極細繊維化技術を応用し、細かい凹凸感を持つ織物を開発、これをメガネ拭き用の布「ＴＯＲＡＹＳＥＥ」(トレシー)として発売し、ヒットさせた。縞模様のデザインなど、洒落たハンカチ感覚のメガネ拭きで、しかも汚れたら洗濯しさえすれば、効果が回復するという利点を持っていた。価格は500～1200円だった。

▶ビールの味が大きく変わった　アルコール飲料に対する嗜好が、軽快ですっきりしたものに移ってきた世界的傾向をとらえて、この年アサヒビールは生ビール「スーパードライ」を発売した。〝もっとキレのよい、もっとドライなビール〟を求める消費者ニーズにこたえたもので、さかんなテレビCMとともに、苦みの強いタイプが優勢だったビール市場にたちまち浸透していった。大瓶310円、中瓶265円、350ミリリットル缶215円だった。

▼足ムレの臭いを防ぐ靴下　臭いのつかない靴下は、いわば究極の靴下として追求されていたが、この年レナウンは、その名も「通勤快足」という、強力な防臭効果をうたった靴下を発売し、靴下としては珍しい大ヒット商品となった。繊維に付着する微生物や細菌の繁殖をおさえる特殊衛生加工糸を、靴下のつま先やかかとなどに編みこんだもので、ネーミングの面白さとあいまって需要を呼び起こした。1足800～1500円だった。

▲いよいよミニ四駆がブームに　この年は、タミヤの模型「レーサーミニ四駆」が爆発的にヒットして、公認の5種競技が誕生するなど、いわば〝ミニ四駆元年〟となった年。そのきっかけとなったのが、この「レーサーミニ四駆・ホットショットジュニア」だ。全長12センチながら、〝ガッツな〟走りを見せ、多くのファンを集めた。駆動メカは、シャフトドライブの4WD。組み立てはほかのミニ四駆と同じで、すべてのパーツがはめこみ式になっていた。1台600円と価格も手頃だった。

人物クローズアップ

俵 万智（二四）

処女歌集が二〇〇万部突破！「サラダ記念日」の〝今の言葉〟

▲『サラダ記念日』。角川短歌賞を受けた「八月の朝」50首など、400首余りを収録した、俵万智の第一歌集。

◀『サラダ記念日』で、昭和63年現代歌人協会賞を受賞。エッセー、絵本などにも活躍の場を広げている。

内山英明

◀国語の教師として四年間つとめた、相模原市の橋本高校を去る俵万智。平成元年四月七日。

共同通信社

昭和六二年五月、後に単行本と文庫を合わせて二六〇万部（平成一〇年二月現在）に達する大ベストセラーとなる短歌集『サラダ記念日』が発刊された。ほとんどが自費出版で、売れても五〇〇〇部がせいぜいという短歌の世界にあって、初版八〇〇〇部をたちまち売り切り、発売後二ヵ月で七〇刷五〇万部を記録。さらに八月にミリオンセラーを突破し、庶民の間に〝サラダ現象〟、〝俵万智現象〟と言われる短歌ブームを巻き起こした。

〝「嫁さんになれよ」だなんてカンチューハイ二本で言ってしまっていいの〟

〝「この味がいいね」と君が言ったから七月六日はサラダ記念日〟

に代表される肩の力が抜けた新鮮な歌風は、「新人類感覚の口語体、現代風みそひと文字」と言われ、国民的映画「男はつらいよ」のスクリーンにも登場した。この処女歌集一作で、県立高校の教師から歌壇のシンデレラガールとなった作者の俵万智（二四）は、明治・大正を代表する女流歌人、与謝野晶子の再来と絶賛された。

俵万智は、昭和三七年一二月三一日、大阪府生まれ。学究肌の父と、些事に頓着しない明るい母との間に育った。

幼い頃から近所でも評判の〝本の虫〟だった彼女に、言葉へのこだわりを芽生えさせたのは、中学二年の時の福井県武生への転居だった。

「生粋の大阪弁では、なかなかうちとけられない。私にとって福井弁をしゃべれるようになるということは、友達を作るということに直接つながっていた。その中で、自然に言葉への興味がつちかわれたようです」

と彼女は当時を振り返る。根っからの文学好きが高じ、高校入学後は、演劇にめざめ、つかこうへいや別役実の戯曲に熱中した。演劇と言えば、「夕鶴」や「山椒太夫」と思っていた彼女は、「熱海殺人事件」など一連のつか流戯曲の新鮮さとパワーに打たれ、のめりこんだと言う。

転校による言葉への興味と、つかこうへいらの斬新な戯曲の影響……このあたりに、後の『サラダ記念日』につながるベースがあるのかもしれない。

文学・演劇少女だった俵万智の目を短歌に向けさせたきっかけは、早稲田大学で教鞭をとる歌人・佐佐木幸綱との出会いだった。この出会いが、古めかしいものとばかり思っていた、彼女の短歌を見る目を変えさせたのだった。

「今の自分を表現するのに、言葉をさかのぼる必要はない。昔の言葉ではなく、今の言葉で書けば、素直な自分が表現できることがわかった」

師である佐佐木幸綱編集の「心の花」に入会し、創作に熱中した。「野球ゲーム」で第三一回角川短歌賞の次席となり、昭和六一年には「八月の朝」で第三二回の同賞を獲得。この年の『サラダ記念日』の発刊へと続く。

「散歩や料理、洗濯など日常のさまざまな場面で発想が浮かぶ。私にとって歌を詠むということは、生活から得た種を大事に育てて果実として実らせる作業なのです」

歌人・俵万智にとって短歌の発想自体が、その歌風と同様に、肩の力を抜いた日常の中にあるようだ。

決定的瞬間

アメリカで“バブル崩壊”！五〇〇〇億ドルの金が紙屑に「ブラック・マンデー」の一日

一九八七年一〇月一九日、月曜日、ニューヨーク証券取引所での長い一日が終わった時、散乱する紙片の中にうなだれるトレーダーの姿は、疲労よりも落胆の色が濃かった。「ああ、金が紙屑になってしまった……」そんなつぶやきさえ聞こえてきそうである。同じ頃、マンハッタンの証券会社の店舗の電光掲示板には、ダウ平均株価（工業株三〇種）一七三八・七四ドルという数字が表示されていた。先週金曜日から五〇八ドルもの暴落であり、たった一日で時価総額にして五〇〇〇億ドルの金が泡のように消えていた。「血に染まったウォール街」という号外が出まわり、大恐慌を引き起こした一九二九年の暗黒の木曜日（ブラック・サーズデー）に擬して、夜のテレビではこの日を「ブラック・マンデー」と命名していた。

▲大暴落を報じる夕刊紙をけわしい表情でのぞきこむ証券マン。

株価暴落の兆候は、数日前から現れていた。貿易収支の赤字、イラン・イラク戦争によるペルシャ湾の緊張などで株価は三日続けて続落し、一八日には西ドイツがインフレ懸念から金利の引き上げを検討していることが伝わってきた。もし西ドイツが金利引き上げに踏み切れば、アメリカも、ドル防衛上、金利を上げざるをえなくなり、それはただちに景気後退につながる懸念があった。まさに、株式市場は絶体絶命の淵に立っていたのだ。

わずか二ヵ月前の八月二五日には、二七二二・四二ドルの史上最高値を記録して沸き返っていた証券界が、なぜこのような大暴落の憂き目を見たのか。背景となる要因は、一九八一年にレーガンが大統領に就任してから行ってきた大幅減税を軸とする「レーガノミックス」という政策によってもたらされたものだ。この政策によって、アメリカは不況から脱出することができた反面、巨大な財政赤字と貿易収支の赤字を抱えこんだ。

たしかに、一九八二年の末から景気は上昇に転じ、五年間も好景気は持続して、株価は上昇を続けていた。ところが財政赤字は、八六年には二二一〇億ドルにまで達し、貿易収支も改善されず、「純債権国」であったアメリカは、八五年には「純債務国」に転落していた。このように、アメリカ経済の実態は危険水域に乗り出しているにもかかわらず、主婦や年金生活者までもが、強気と楽観論に支配され、株に金を投じていたのだ。

この暴落が経済実体にまでは波及せず、一九二九年の暗黒の木曜日のような大不況を再現しなかったのは、ロンドン、東京など各国の株式市場でのリスク分散やG7などの国際協調態勢によって、迅速に対応策がとられたことによる。

しかし、株価暴落の後には不動産不況が追い打ちをかけ、金融界は生存競争の荒波にさらされることとなった。たとえば、世界最大の銀行であったバンク・オブ・アメリカは一九八六年からの三年間で、国際業務の切り捨て、資産売却、管理職の入れ替え、土曜日も営業するなどの大胆な再建策を実行。また日本でも知られているシティバンクは費用削減、周辺業務の売却のほか、九一年には五〇〇〇人、九二年にはさらに一万人を解雇するという荒療治を行って息を吹き返した。バブルの後の金融不安は、こうした血みどろのリストラを経て回避され、アメリカは再生への道を歩み始めたのだ。

▲混乱するニューヨーク証券取引所。コンピュータを利用したプログラム売買が暴落に拍車をかけた。

▲「ブラック・マンデー」の衝撃は、1929年の世界大恐慌時の値下がり率を上回り、下げ幅は史上最大を記録した。 トム・ソボリック（BLACK STAR） PPS（3点とも）

風景の輝く瞬間を"撮る!"
前田真三の個人ギャラリー「拓真館」、北海道にオープン

◀「麦秋鮮烈」(1977年)。空にのしかかる蒼黒い雲と夕陽に照らされた小麦畑との一瞬のコントラストを切りとった、前田真三の代表作。　前田真三(3点とも)

昭和六二年七月一〇日、北海道上川郡美瑛町字拓進に、風景写真家・前田真三(六五)の個人ギャラリー「拓真館」がオープンした。美瑛町と上富良野町にまたがって、ゆるやかな曲線を描いて横たわる広大な丘陵地帯の中心部とも言える場所で、東には十勝連峰の山並みがそびえている。

拓真館は、廃校となっていた千代田小学校の跡地に建てられたもので、写真展示場と住宅部分は前田真三自身が改修・新築し、駐車場などの公的部分は町が整備するという協力体制のもとに、開館にこぎつけたのだった。

落成式には町の関係者ら一五〇人が参加。水上博町長の「この拓真館を美瑛町の誇りに、さらに『顔』として発展させたい」などの挨拶が行われた。またオープニングパーティーには、前田の写真集『丘の四季』から曲想を得て同名の曲を作曲した川添まさ史さんが駆けつけてピアノ演奏を披露。約二六〇平方㍍のギャラリーには、二〇〇点ほどの前田作品が展示され、その中に美しいメロディーが流れて、会を盛り上げた。

実際にオープンしたものの、「はたしてこんなところまで、人が来るのだろうか」という不安があった。前田真三の長男の晃氏は、当時の心境をこう語る。

「人が来るのか来ないのか、まったく予想が立たなかった。せめて撮影のための前線基地にでもなれば、くらいに考えていました」

だが、関係者の心配をよそに、オープンから半年で三万二五〇〇人が訪れた。そして平成二年には一〇万人を超え、同七年には年間三〇万人を超える観光客が、拓真館を訪れるようになった。今では、むしろ観光公害の方が心配になるほどだという。

前田真三は大正一一年、東京府南多摩郡恩方村(現・八王子市下恩方町)の山林業を営む家に生まれた。この村は童謡「ゆうやけこやけ」の作詞者・中村雨紅の故郷でもある。当時の恩方村は、詩に歌われたとおりの素朴でのどかな山村だったという。少年時代から虫を捕まえたり魚釣りをするのが好きだった前田は、一五歳の時に発足してまもない日本野鳥の会に入会、最年少会員となった。この少年時代につちかわれた自然を見る感性が、前田真三の風景写真の原点を形成していったのであろう。

◀秋のいろどりに包まれた拓真館の庭で、愛用の大型カメラ、リンホフを前に立つ前田真三。

戦後、前田は日本の代表的な商社である日綿実業の営業マンとなる。一七年間勤務した後、昭和四二年に写真撮影・リース会社「丹溪」を創設した。カメラマンとしては遅い四五歳での出発だった。日綿時代に給料の一〇ヵ月分をはたいて買った大型カメラ、リンホフが、写真の仕事を始める大きなきっかけとなる。また、商社のサラリーマン時代に養われた日本を見つめる眼や時代の感性を読み取る能力も生かされたに違いない。高度経済成長の歪みがいたるところに現れ、環境や人間のありようが問われるようになると、前田の風景写真は多くの人々の共感を呼び起こし、急速に評価が高まっていった。

前田が北海道のこの地を初めて訪れたのは、昭和四六年のことである。この年、列島縦断の撮影旅行を思いたった彼は、南は鹿児島県の佐多岬から、北は北海道の宗谷岬まで、車で三ヵ月かけて北上した。その帰路、七月にたまたま立ち寄った美馬牛峠付近で、おおらかに広がる丘の上に立っていると、五体が痺れるような感激に襲われたという。以来、彼はこの丘陵に足しげくかようようになる。

大型カメラのリンホフを、小型カメラを操るように自在に使いこなし、独自の風景写真の傑作を生み出していった。その成果は昭和五三年に東京、大阪、福岡で開かれた個展「自然・北海道」や、北海道で開かれた個展「大地の詩」で発表され、さらに『北海道—大地の詩』(集英社)やフォトレット・丘シリーズ(講談社)などの写真集として結実した。前田真三の新境地を拓いたこれらの写真の数々は、多くの人々を魅了し、「日本にもこんな壮大な風景があったのか」という驚きと感動を与えた。

前田にとって風景は、常に変化しているものである。その風景の輝く瞬間を、つねに追い求めて彼はシャッターを切る。この「出合い」にすべてをかけた前田の眼差しから、今も美しい作品が生み出されている。

▶拓真館全景。春はエゾヤマザクラが美しい。

◀大正初期に活用された「TYK無線電話機」。当時としては画期的なものだったが、真空管による無線機器の発達で使われなくなった。 奥村健太郎

▼公衆電話のいろいろ。中央に見えるのが、元祖「赤電話」である。

20世紀博物館

逓信総合博物館

情報伝達の原点を実感させる"逓"の一文字

東京・千代田区

桑原茂夫

情報伝達と言うと、今やコンピュータ・ネットワークや衛星を介しての通信が花形となり、次第に大きなウエイトを占めるようになってきた。情報伝達にかかわる事業もその様相を大きく変えようとしており、この逓信総合博物館もリニューアルを繰り返してきたが、しかし名称は変わることなく「逓信総合博物館」なのだ。郵政省の前身である逓信省管轄下の博物館であったことの名残ではあるが、このデジタル時代に、頑としてその名を残しているのは面白い。

そもそも"逓"という文字は、情報を乗せた馬車が、乗り継ぎのために交替することを意味していた。それによって、情報も順次送り伝えられ、極端に言えば人の住む所ならどこへでも、情報は届けられたのである。

現代における"逓"としては、たとえばパラボラアンテナや通信衛星などによる中継が脚光をあびているが、技術的に通信方法がどう変化しても、"逓"そのものは、情報伝達に不可欠であり、逓信総合博物館は、この字を残すことによって、そのことを主張し続けているかのようだ。

さて館内は、共同運営者である、郵政省とNTT、NHK、KDDの四者がそれぞれのフロアを占有し、郵政省は郵便を、またNTTは電信電話を、NHKは衛星放送を、KDDは国際通信を、それぞれ中心テーマにして展示している。各フロアはコンピュータなどを駆使して、いかにも高度情報化社会と言われている新しい時代の雰囲気を漂わせているのだが、どのように装いを変えて見せても、情報通信の歴史は、結局のところ、どうすれば遠方まで情報を速く正確に伝えられるか、それも可能な限り"レア"の状態で伝えられるか、その方法を模索してきた歴史だった。

その意味で、肉声(なんとなまなましい表現であることか!)を肉声のままに送り届けようとした電話や、情報を文字や絵にまとめて直接送り届けようとした郵便というメディアは、実に革命的な方法だったと言えるだろう。

明治一一年に登場した国産第一号電話機や、一九世紀末から昭和四〇年頃まで、えんえんと使われてきた、磁石式壁掛け電話機(ハンドルをまわして交換手を呼び出す装置)、真っ赤な公衆電話機など、その時代の驚嘆の声が聞こえてきそうな電話機の数々。そして、大正初期のほんの短い期間用いられていた、火花を利用した無線電話装置も、すぐに真空管を用いた通信機器にとって代わられた運命もなんのその、その存在意義の大きさを堂々とアピールしている。

▲戦時中撤去された鉄製のポストに代わって街角に登場した、陶器製のポスト。ポストをなくすまいとする執念が感じられる。

▼世界中の切手が25万点も集められた、なまの切手データベース。

郵便の方でも、"逓"の要となってきた"ポスト"がずらりと並んで、そのさまざまな形を見せている。考えてみればポストと言うのも大変な装置で、どんな機械もおよばない信頼に基づいて、情報伝達の入り口になってきたのである。

人類の長い歴史の中から生まれてきたこれらのメディアは、まだまだ情報伝達の基礎を形成するものであることを、この逓信総合博物館は感じさせるのである。

●逓信総合博物館
東京都千代田区大手町二―三―一
☎〇三―三二四四―六八一一
地下鉄各線大手町駅から徒歩一分
開館時間=九時~一六時半(金曜は~一八時半)
休館日=月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始
入館料=一般一一〇円

▲現代の情報伝達技術を体験的に知るコーナー。写真奥に見えるパラボラアンテナの前に立ってささやくと、向かい側の(写真では見えない)パラボラアンテナの前に立つ人に、その声が聞こえる。

「円高ドル安」のメリットを満喫
ビートルズ以来の"来日"大フィーバー!

マドンナ、マイケル・ジャクソン狂騒曲

▲6月14日、大阪球場で来日初コンサートを行ったマドンナ。ワールド・ツアーの皮切りでもあった。 日刊スポーツ

発売されたチケットはすぐに完売し、到着した空港は大混乱、動員された警察官は数千人単位にのぼるなど、昭和六二年に来日したマイケル・ジャクソンとマドンナは、まさに列島に旋風を起こした。"八〇年代のポップシーンを代表するアーチスト"と言われた二人――それだけに、異例ずくめのさまざまな騒動が繰り広げられたのである。

"永遠のピーターパン"に観客四三万人が酔った

昭和六二年九月一二日、東京・後楽園球場には約三万八〇〇〇人のファンが駆けつけていた。午後六時五〇分、特設ステージにスモークが湧き上がり、三六基の巨大スピーカーが強烈なビートを刻み始めると、一〇〇個のライトを背中にあびた黒い姿が浮かび上がる。ステージ脇にある二四〇の巨大スクリーンに映しだされるマイケル・ジャクソン(二九)の顔。世界のスーパースターの登場に総立ちになる観客の中には、小錦や郷ひろみ夫妻といった著名人の顔もあった。

世界で四〇〇〇万枚を売り、ギネスブックにも載ったスーパーアルバム「スリラー」のナンバーを皮切りに、「今夜はビート・イット」などのヒット曲が続き、「ビリー・ジーン」ではすべるように歩く"ムーンウォーク"を披露。しめの

「BAD」を含む全一八曲を歌い上げた。一時間三五分の公演を終えてステージから走り去るマイケル。「終わりなのぉー」「もう一度出てきてぇー」と、悲鳴にも似たどよめきが場内から起きた――。

五歳の時に兄四人と「ジャクソン・ファイブ」を結成して以来、次々とヒットを放ち、一九七九年のソロアルバム「オフ・ザ・ウォール」の売り上げが世界で三〇〇万枚を記録。邸宅に動物園を作り、奇病研究に熱中する〝奇行〟も噂される一方で、一九八四年にはグラミー賞八部門を獲得した彼をめぐる〝狂騒曲〟は、実は初のソロ公演前から始まっていた。

宿泊先のキャピトル東急ホテルでは、最上階の「インペリアルスイート・ルーム」(通常は一泊一五万円)に、「四〇〇〇万円相当のペルシャ絨毯(じゅうたん)、イタリアの最高級家具、世界的な現代画家の今井俊満の絵など、家具だけで計七〇〇〇万円分を配置した」と、後にホテル関係者があかすほどの贅(ぜい)の尽くしようだった。

発売と同時に売り切れたチケット(六五〇〇円と五〇〇〇円)にはプレミアムがつき、八月には定価の一七倍にあたる一一万円で売ったダフ屋が逮捕される。

到着した九月九日に成田空港へ詰めかけた報道陣は約三〇〇人。シャットアウトされた到着ロビーをファンが強行突破し、一時は空港が騒然となる始末だった。

これに対し、来日したマイケル側も空前のスケールである。ボディガード、お抱えコック、会計士、弁護士などにチンパンジーのバブルス君を含めた約一五〇人のスタッフに、米国から特別空輸された照明や音響装置などの機材は一五〇トン。

当のマイケルも、公演の合い間に遊園地や百貨店を貸し切りで豪遊。文京区の富坂署に現れ、「警備担当の方々にお礼を言いたい」と署員を喜ばせたり、ファンを極秘にホテルに招いたりと、旺盛なサービス精神でもスターぶりを発揮した。

結局、国内四ヵ所で行われた「マイケル・ジャクソン・ジャパンツアー'87」は、四三万人の観客を動員。マイケル自身へのギャラは二五億円とも言われ、この年の六月に列島で吹き荒れた〝マドンナ旋風〟を超えて、「日本コンサート史上空前の規模」とまで言われることになる。

ランジェリー姿で熱唱 〝八〇年代のモンロー〟

六月に来日したマドンナの初公演も、規模こそマイケルにおよばないものの、周囲の熱狂ぶりでは負けていなかった。

ポルノ出演といった無名時代のスキャンダルを逆手に取って、「ライク・ア・バージン」などのヒットを飛ばす〝八〇年代のモンロー〟を一目見ようと、チケット一四万五七〇〇枚(五公演分。六五〇〇円と五〇〇〇円の二種)に、全国から三二万三〇〇〇人の応募者が殺到した。

来日中は、大阪府警が宿舎から会場までの信号をすべて青にして、一気にマドンナを移動させるVIP並みの交通規制も敷いた。二〇日の東京公演が豪雨で中止になり、あきらめきれないファン二〇〇人がホテルに押しかけて「マドンナに会うまで帰らない」と座りこむ一幕も。

こうした騒動が起きるだけあって、ステージ上のマドンナは、下着姿で激しく腰を振りながら熱唱。観客は〝現代のセックスシンボル〟に魅了され、米国のショービジネスの奥深さを見せつけられた。

実を言うと、昭和六二年は一ドル＝一四〇円の円高メリットによって、ライオネル・リッチー、ヒューイ・ルイスといった大物外国人の来日ラッシュの年だった。その中で、マイケル・ジャクソンとマドンナが〝ビートルズ公演以来〟の大旋風を巻き起こした理由について、音楽評論家の安倍寧氏は、次のように指摘する。

「マイケルとマドンナは、AV(オーディオ・ビジュアル)をたくみに活用しながら、衣装、照明、演出といったすべての面を計算し、コンサートを総合的なショーに仕掛けた先駆的なアーチストでした。

特にマイケルは、ビートルズ以降空席だった〝スーパースター〟の座を埋めた存在と言っていい。巨大なスタジアムであれだけのエンターテインメントをできるスターは、彼の後には現れていません」

この日本公演後も二人は――マイケルが人種差別や環境問題といった社会性の強いテーマを歌い続け、マドンナは過激なヌード写真集や公演で〝性〟を表現し続けるなど――八〇年代のポップシーンを代表するスーパースターであり続けた。

ただし、九〇年代になってからは、映画「エビータ」で一九九七年にゴールデングローブ賞主演女優賞を獲得して、女優としての地位も固めるマドンナとは裏腹に、マイケルの栄光にはかげりが見えている。

一九九三年に発覚した少年へのセクハラ疑惑が決定打となって、薬物中毒説や再起不能説といったスキャンダルが集中したのである。しかし、九七年二月には、マイケルと三七歳の元看護婦との間に長男が誕生。父になった〝永遠のピーターパン〟には今年、長女も生まれる予定だ。

▲9月9日、成田着の日航機で来日した、ポピュラー界のスーパースター、マイケル・ジャクソン。14回の公演はすべて超満員の盛況だった。 時事通信社

◀マイケル・ジャクソンは、9月12日の後楽園球場で日本ツアーの幕を開けた。照明、舞台装置も空前のスケールだった。

時事通信社

▶六月二一日、マドンナの東京公演では後楽園球場に入り切れず、場外で踊り出す〝マドンナ・ルック〟のファンも。

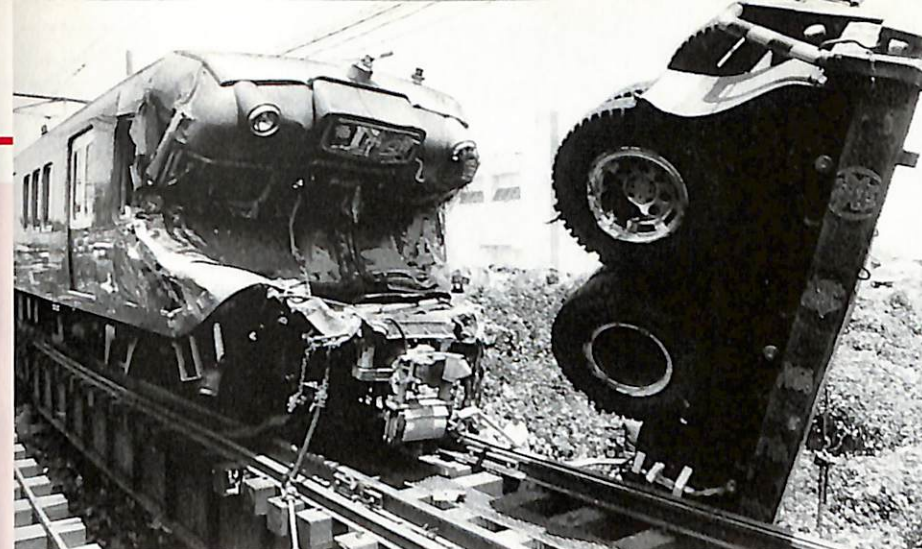
朝日新聞社

7~8月

フォト＋日録で再現する365日

◀**踏切でトレーラーと電車が衝突(7月8日)** 愛知県西春日井郡の名鉄犬山線踏切に立ち往生中、4両編成の急行が突っこみ、電車乗客186人が重軽傷を負った。

朝日新聞社

▼**武豊、快進撃(7月4日)** 3月デビューで、早くも特別レース「なでしこ賞」制覇(写真)。「名人」武邦彦の血筋か、18歳のこの年69勝、新人最多勝を記録した。

共同通信社

▼**メッカで巡礼団が暴動(7月31日)** 数千人のイラン人が、「米国に死を」などと叫び暴徒化。サウジアラビア警官隊の発砲で402人が死亡したため、ペルシャ湾岸各国に緊張が走った。

AP/WWP

共同通信社

▼**東芝製品バッシング(7月1日)** 5月に表面化した東芝機械のココム違反事件は、貿易不均衡で強まる対日批判に火をつけた。写真は議事堂前で東芝製品をハンマーで壊す米議員。

ロイター・サン

▼**ゴッホの代表作「ひまわり」東京着(7月20日)** 安田火災海上保険がロンドンのオークションで53億円で落札、「金余り日本の象徴」などと批判もされた。写真は梱包を解かれた名画。

朝日新聞社

▲**NHK、24時間衛星放送開始(7月4日)** 米ABC、CNN、英BBCなど海外のニュースをリアルタイムで味わえる報道番組や、高品質の音楽放送などが目玉。受信世帯は約14万。

昭和62年7月

1(水)●ココム違反事件で東芝の会長と社長辞任。
●外国土産の免税点を二〇万円に引き上げ。

2(木)●最高裁、石油ヤミカルテル事件(昭和49年)への消費者九八人の損害賠償請求を棄却。

3(金)●成田離陸直後のジャンボ機からドア落下事故。

4(土)●自民竹下派、田中派から独立し経世会結成。
●衛星放送開始で受信機の品切れ続出と新聞に。
●ナブラチロワ、全英テニスで史上初の六連覇。

5(日)●酒井雄哉、二度目の比叡山千日回峰行達成。

6(月)●南京大虐殺関与の元兵士、初めて証拠を公表。

7(火)●カルチャー教室受講者は一三六万人と文部省。

8(水)●東京地裁、CBSソニーの請求認め都内貸しレコード三社に初の差し押さえを執行。

9(木)●東京から福岡にかけデパートで寝具に針を混入した女性が、大阪・松坂屋で逮捕される。

10(金)●東京地裁、ブロマイド撮影者に著作権認める。

11(土)●世界の人口が五〇億人を突破。

12(日)●週休二日企業が初めて五割突破と労働省発表。

13(月)●人事院、国家公務員の自殺防止手引き書配布。

14(火)●北海道の三井石炭鉱業砂川鉱業所、閉山。

15(水)●仙台市に地下鉄南北線開業。東北地方で初。
●台湾で三八年にわたる戒厳令を解除。

16(木)●落語協会、真打ち昇進試験制度の廃止を決定。
●山田詠美、直木賞に決定。

17(金)●日弁連、霊感商法の被害三一七億円と発表。

18(土)●船橋市に日本最大の巨大迷路「ランズボローメイズ・ららぽーと」開場。

19(日)●外務省、前年に海外で事件・事故に遭遇した日本人は四二二九人と発表。

20(月)●気象庁、天気予報の用語集を二一年ぶり改訂。

21(火)●日米、日本のSDI参加協定に調印。

22(水)●広島大総合科学部長を助手が人事恨み刺殺。

23(木)●猛暑で電力需要が急増し首都圏六都県で停電。

24(金)●九一歳の米国人、富士登頂の女性最年長記録。

25(土)●川崎市の教会に包丁男が乱入、警察官が射殺。

26(日)●農水省、国際捕鯨委員会の中止勧告を拒否して調査捕鯨実施の方針を決定。

27(月)●日本最大の不動産流通情報システム運用開始。

28(火)●佐渡島の世尊寺にトキの碑「朱鷺翔天」建立。

29(水)●東京高裁、ロ事件公判で田中角栄の控訴棄却。

30(木)●日本電気、三二ビットパソコンを米で生産と表明。

31(金)●環境庁、北海道・釧路湿原を国立公園に指定。
●サウジアラビアでメッカ巡礼のイラン人が反米デモ行い警官隊と衝突。約一〇〇〇人死傷。

証言・あの日この日

吉本隆明(63)

12月31日(木) 〈大晦日、午後9時からの1チャンネル「紅白歌合戦」は、和田アキ子・加山雄三の司会で、森進一「悲しいけれど」、八代亜紀「恋は火の河」から例年のように始まった。観せる要素はしぼんでいるので、とびとびに聴いただけだ。わたしのいちばん強い印象は、大晦日は歌謡を聴いてくつろぐという感覚はすでにおわったなということだった〉(吉本隆明『情況としての画像』)

「教祖」と言われ、戦後生まれの若者たちに大きな影響を与えてきた評論家・吉本隆明の趣味は、意外にもテレビだった。しかし、早くからテレビの力に注目していた吉本ですら、この頃からテレビの地盤沈下をひしひしと感じ始める。その典型が国民的番組・紅白歌合戦の視聴率低下。1951年に始まったこの番組も、この年の視聴率は史上最低の53.9パーセントに落ちこんだ。(山崎行太郎)

▼**瀬戸大橋、最終ボルト締結式(8月12日)** 本四連絡橋・児島―坂出ルート最長の吊り橋、南備讃瀬戸大橋(全長1723メートル)の橋桁工事が完成。翌年4月の竣工に向けて、本州と四国が陸続きとなる。

共同通信社

共同通信社

▲**さよなら裕ちゃん(7月17日)** 昭和30年代の日本映画を代表する大スター、石原裕次郎が肝細胞癌で亡くなった。52歳。8月11日、東京・青山で告別式が行われ、大勢のファンが別れをおしんだ。

◀**「ロス疑惑」で米検事ら来日(8月18日)** 警視庁による関係者の事情聴取などに立ち会い、捜査資料を収集。写真は合同捜査会議のため、警視庁を訪れたルイス・イトウ検事(手前)とジミー・佐古田捜査官(その右)。

読売新聞社

▼**皇居に向け翼つき弾(8月27日)** 東京都千代田区の路上に駐車中の保冷車荷台から5発、宮内庁宿舎周辺に飛んだ。天皇の沖縄国体出席に反対する、中核派の犯行だった。

▶**日本初のビーチバレー公式大会、開催(8月9日)** 神奈川県江の島海岸の砂浜で、2人制で戦う男子大会が行われ、川合・熊田組が勝った。写真はエキジビションに登場した早大の堀江陽子(18)。平成3年からは女子大会も実施、アトランタ五輪(1996年)では正式種目となった。

報知新聞社

昭和62年8月

1(土)●宮沢喜一蔵相、国民資産倍増計画を発表。

2(日)●千葉県印旛沼フェスティバル開催。浄化訴え一万五〇〇〇人が人間の鎖で西沼を囲む。

3(月)●米中西部・東部で猛烈な熱波。八〇人死亡。

4(火)●三省庁の研究者ら、SDI参加反対を宣言。

5(水)●高知県でサーファーらに落雷。一二人死傷。

6(木)●本田技研に国産車初のエアバッグ装備認可。

7(金)●東京地裁、「ロス疑惑」の被告に懲役六年。
●臨教審、生涯学習など提唱の最終答申を提出。

8(土)●東京湾のコノシロ漁、PCBが基準を下回ったため一四年ぶりに規制解除される。

9(日)●中日の新人・近藤真一、巨人戦で史上初の初登板ノーヒット・ノーランを記録。

10(月)●千葉県の高校で二五人が結核に感染と判明。

11(火)●二三区内通勤通学の四割が区外からと総務庁。

12(水)●中央薬事審、エイズ延命薬の輸入承認を決定。

13(木)●農水省、需要増の輸入牛肉を二割増量と発表。

14(金)●航空一三社、日本発欧州線の大幅割引を申請。

15(土)●厚生省、アフリカから帰国の男性が日本人初のラッサ熱に感染と発表。

16(日)●八王子市で圏央道反対同盟が千人集会を開催。

17(月)●ナチ戦犯ルドルフ・ヘス、刑務所で自殺。

18(火)●炭火焼料理流行で木炭生産回復と農水省発表。

19(水)●外務省、急増する「じゃぱゆきさん」対策に日比協議機関設置を決定。

20(木)●京都で低温物理学国際会議開催。超伝導実用化に関心集まり四二カ国一五〇〇人が参加。
●マガジンハウスの「平凡」「週刊平凡」休刊へ。

21(金)●劇団夢の遊眠社、「野獣降臨」を英国で上演。

22(土)●横須賀と佐世保に米軍の核兵器事故処理隊が存在と新聞報道(9月12日米軍認める)。

23(日)●倉敷市の癌患者三人、モンブラン登頂に成功。

24(月)●群馬県大泉町で監視が厳しいと娘が父親刺殺。

25(火)●窓口業務の悪印象一位は警察署、と総務庁。

26(水)●三井物産など出資のイラン化学開発、イラン・ジャパン石油化学事業からの撤退を表明。

27(木)●皇居に無人トラックから翼つき弾五発発射。
●国鉄最後の決算報告。負債二五兆六五二億円。

28(金)●東京で第一回世界少年サッカー大会開幕。

29(土)●鋼材価格が二カ月で最高四割の上昇と新聞に。

30(日)●米ハネウェル社がミノルタを自動焦点機構の特許侵害で提訴と判明。

31(月)●東京高裁、多摩川水害(昭和49年)訴訟で国に管理ミスはないとして住民側逆転敗訴。

▶新国劇、70年の歴史に幕(9月7日)大正6年、沢田正二郎が旗揚げ、剣劇「国定忠治」など男っぽさを売りものに人気を得てきたが、テレビなどに押されてふるわず解散に。写真は解散を発表する二枚看板の辰巳柳太郎(82=左)と島田正吾(81)。

朝日新聞社

◀山東昭子、参院環境特別委員長を辞任(9月4日)テレビのゴルフ番組録画撮りのため、全国の公害病患者の関心を集めていた、公害健康被害補償法改正案の本会議審議をすっぽかした。就任わずか2カ月足らずだった。

共同通信社

▼29年ぶりの金環食(9月23日)沖縄への観測ツアーが盛況。写真は、那覇市で行われた海邦国体夏季大会に参加、自然の驚異に遭遇した選手たち。シンクロの小谷実可子(手前)の顔も。

共同通信社

▲新電電スタート(9月4日)第二電電、日本テレコム、日本高速通信の各回線とNTT回線を接続。3社の市外電話サービス開始で、4社競合の戦国時代に突入した。

共同通信社

▲青森―熊本間2000キロが高速道で接続(9月9日)東北自動車道の浦和インターチェンジと首都高速道路川口線が接続。写真は、接続部に完成した中央環状線「かつしかハープ橋」。美しい姿で、首都高速の新名所となった。

共同通信社

▶大乃国、横綱昇進(9月30日)ここ3場所、40勝5敗の好成績が評価された。24歳。放駒部屋。史上最重量の横綱誕生だった。元横綱・初代若乃花(左)が雲龍型土俵入りを指導した。

朝日新聞社

昭和62年9月

1(火)●防衛施設庁、三宅島の米軍訓練飛行場の気象観測用鉄柱建設を強行。島民五〇〇人と衝突。
2(水)●最高裁、有責配偶者にも離婚請求権を認定。
3(木)●先進工業国で日本だけ時短に逆行とILO。
4(金)●新電電三社(第二電電・日本テレコム・日本高速通信)、開業。
5(土)●北海道白老町でシンナー吸引の少年三人自殺。
6(日)●壁掛け式など仏壇にも新製品続々、と新聞に。
7(月)●大正六年結成の新国劇、解散と決定。
●ホーネッカー東独議長、初めて西独を訪問。
8(火)●日本IBM、家庭向けパソコン撤退を表明。
9(水)●東北自動車道と首都高が連結し、青森―熊本間が高速自動車道路でつながる。
●米ロック歌手マイケル・ジャクソン、来日。
10(木)●村上春樹著『ノルウェイの森』刊行。
11(金)●公立小・中生の自殺が過去最高と文部省発表。
12(土)●東京の光が丘パークタウン分譲受付開始(平均倍率二二三倍、最高一五九五倍)。
13(日)●円高と過剰生産で卵価格暴落、と新聞に。
14(月)●運輸省、海外旅行者倍増計画を決定。
15(火)●米仲裁協会、IBMとのソフトウェア著作権紛争で富士通に和解金支払いを命令。
16(水)●モントリオールでのフロンガス規制会議、一九九九年までに消費量半減の議定書に署名。
17(木)●蜷川幸雄演出の「マクベス」、英公演。
18(金)●公取委、エステ業界に誇大広告改善を指示。
19(土)●マル優廃止などの税制改正法案、成立。
20(日)●日本一巡の国体、最後の開催県沖縄で開幕。
21(月)●約五億円の偽領収書発行のB勘屋ら三人逮捕。
22(火)●血友病患者の約三九%が輸入血液製剤でHIV感染と厚生省。
●天皇、慢性膵炎で入院(10月7日退院)。
23(水)●国内では今世紀最後の金環食を沖縄で観測。
24(木)●名古屋の朝日新聞社寮で男が散弾銃を発射。
25(金)●固定資産税評価額引き上げ発表。平均一六%。
●科学技術会議、理化学研究所申請のP4実験室での遺伝子組み換え実験を初めて認可。
26(土)●単身赴任者は全国一七万五〇〇〇人と労働省。
27(日)●運輸省、都心での金曜夜のタクシー増車決定。
28(月)●杉並区の不動産会社社長宅に暴力団員籠城。人質女性を射殺し自殺はかる。
29(火)●三井信託銀が地上げ屋に四〇億円融資と判明。
30(水)●海上保安庁、沖ノ鳥島が水没寸前と発表。
●東京都の地価は八五・七%の暴騰と国土庁。

▶「スターの手形広場」誕生(10月8日)東宝が創立55周年を記念して東京・日比谷の映画街、シャンテ合歓木広場に完成。除幕式には沢口靖子(写真)、栗原小巻ら俳優15人が顔をそろえた。

共同通信社

◀利根川進(48)、ノーベル医学生理学賞受賞(10月12日)免疫の仕組みについての遺伝子工学的解明が認められたもの。ノーベル賞受賞は日本人で7人目。昭和56年からマサチューセッツ工科大教授だった。写真は喜びの一家。

AP／WWP

▼米、イランの海上石油基地爆撃(10月19日)前週、米船籍タンカーがミサイル攻撃で炎上したことへの報復だった。これに対し、イランはクウェートを砲撃。27日には米国が経済制裁に踏み切り、両者のあつれきが高まった。

ロイター・サン／共同通信社

▼昭和天皇、15日ぶり退院(10月7日)夏から体調を崩され、9月に宮内庁病院に入院。東大医学部教授・森岡恭彦らの執刀で「慢性膵炎」による腸の通過障害をのぞく手術を受けられた。国体出席のための沖縄訪問は取りやめとなっていた。

共同通信社

◀都営・営団地下鉄22駅が「終日禁煙」(10月1日)利用者の強い要望と防災上の効果がねらいで、翌年1月からは全駅におよんだ。写真は都営地下鉄・曙橋駅の表示板。

読売新聞社

▼チベットで独立デモ(10月1日)ラサ市のジョカン寺院前でデモをしたラマ僧8人が逮捕され、群衆約2000人が警察に投石するなどの騒ぎとなって、死者6人が出た。

AP／WWP

昭和62年10月

1(木)●TBSとフジテレビ、二四時間放送を開始。
2(金)●自衛隊の次期支援戦闘機共同開発で日米合意。
●国土庁、東京臨海副都心開発計画を発表。
3(土)●皇太子夫妻、二七年ぶり米国公式訪問に出発。
4(日)●水俣病の潜在患者救済の集団検診が関東で初めて港区で行われる。二〇人に可能性と診断。
5(月)●プラチナジュエリーのコンテストで入選の九割が日本製、消費量も世界一、と新聞に。
6(火)●北炭真谷地炭鉱の労使、閉山協定書に調印。
7(水)●探検家・鈴木紀夫、ヒマラヤで遺体発見と判明。
8(木)●秋田魁新報社会長経営のゴルフ場が県費で改修工事と元社会部次長が告発(会長辞任)。
9(金)●巨人、王監督のもとで初めてリーグ優勝。
10(土)●超軽量動力飛行機の墜落事故続き三人死亡。
11(日)●逗子市長選。米軍住宅反対の富野前市長再選。
12(月)●利根川進、ノーベル医学生理学賞に決定。
13(火)●ほぼすべての金融機関でマル優悪用と国税庁。
14(水)●西武がダイエーの「オレンジページ」に対抗して「レタスクラブ」を創刊、と新聞に。
15(木)●イラン、米タンカーをミサイル攻撃(19日米がイラン石油基地に報復攻撃)。
16(金)●総評、顧問の太田薫・岩井章・市川誠を解任。
17(土)●京都市議会、古都保存税廃止の条例案可決。
18(日)●井岡弘樹、世界ストロー級の初代王座獲得。
●日本電気、光記憶素子の開発に成功と発表。
19(月)●ニューヨーク株式市場、大暴落(ブラック・マンデー)。翌日東証も過去最大の下げ幅。
20(火)●厚生省、「乳児ボツリヌス症」の感染源とみられる蜂蜜を零歳児に与えぬよう通達。
21(水)●東工大、微生物利用のプラスチック製法発表。
22(木)●丸善、米での競売でグーテンベルクの聖書を七億八〇〇〇万円で落札。
23(金)●絵画輸入が前年の二倍七三四億円と東京税関。
24(土)●厚生省に高齢者の医学研究班三〇が発足。
25(日)●大阪・花園ラグビー場で初来日のオールブラックス、日本代表を七四対〇。
26(月)●沖縄県読谷村の国体ソフトボール会場で、掲揚に抗議し「日の丸」焼き捨てられる。
27(火)●警視庁、仏で盗難の絵画五点中コローの「夕暮れ」など三点を都内で発見。
28(水)●ジャスコ、一杯一二〇円のコーヒー店開店。
29(木)●国鉄清算事業団、車両一万八〇〇〇両を発売。
30(金)●ガット、日本に農産物輸入自由化の勧告内示。
31(土)●農水省試験場で凍結精子での体外受精豚出産。

共同通信社

▲岡本綾子（36）、日本人初の賞金女王に（11月8日）飯能市で行われた米女子プロゴルフツアー最終戦で2位となり、ベッツィ・キングを逆転。ツアー挑戦７年目の快挙だった。

朝日新聞社

▲後楽園球場、解体（11月9日）半世紀の間、ファンに親しまれてきたプロ野球の殿堂が、翌年春完成の東京ドームにバトンタッチ。跡地は、新球場の駐車場などになった。

▼皇太子ご夫妻、競馬観戦（11月1日）天皇賞競走が50周年記念にあたるため、日本中央競馬会が招待。観衆約10万に膨れ上がった東京・府中の東京競馬場で、天皇賞など2レースを観戦、思わず身を乗り出された。

共同通信社

読売新聞社

◀南ア航空ジャンボ機墜落（11月28日）台北からヨハネスバーグに向かう途中、インド洋上モーリシャス付近で遭難。「火事だ」が最後の連絡だった。日本人の漁船員ら47人が乗っていた。写真は遺留品を見る日本人家族。

▲九州初の日米共同訓練（11月1日）大分県中央部の高原にある日出生台、十文字原両演習場に陸上自衛隊約1500人、米軍約1600人が集結。実弾射撃を含む本格的な戦闘訓練に、市民団体などが3万人の抗議集会。

▶中国指導部、若返り（11月2日）北京で開かれていた13全大会で、趙紫陽を総書記とする新指導部を選出。中央委から鄧小平ら長老が引退、改革・解放路線の体制を確立した。軍の指揮権は鄧が維持。写真は開会式の議長団席、左から陳雲、鄧、趙、李先念。

新華社／中国通信

昭和62年 11月

1（日）●金閣寺、金箔の全面張り替え終了し一般公開。
2（月）●中国共産党総書記に趙紫陽、就任。
●ゴルバチョフ、革命七〇周年記念集会で「民主主義のもとで社会主義を前進させる」と宣言。
3（火）●鳥取県の一歳の女児、肝移植手術のため渡米。
4（水）●一九年ぶり全面改定の日米新原子力協定調印。
●東海大、体外受精で一〇〇例が妊娠と発表。
5（木）●南極で巨大氷山が漂流始める。長さ一五八キロ。
●警視庁、一ヵ月で預り金が倍増すると数十億円集めた都内の先物取引業四社を摘発。
6（金）●有明海苔、赤腐れ病広がり危機と水産試験場。
7（土）●職場旅行に異変、海外旅行が増加、と新聞に。
8（日）●岡本綾子、全米女子ゴルフ初の外国人賞金王。
9（月）●ドーム球場建設で後楽園球場の解体始まる。
10（火）●ガット、日本の酒税は輸入酒差別と是正勧告。
11（水）●コンビニでも文庫本発売決定、と新聞に。
12（木）●円高が留学生の生活を圧迫、来日三ヵ月のバングラデシュの青年が餓死。
●巨人・江川卓投手、引退。
13（金）●自然保護団体、ブナ原生の白神山地を通る青秋林道建設反対の意見書九千余通提出。
14（土）●騎手の武豊、新人最多勝記録更新の五九勝。
15（日）●横浜市でオートマ車が急発進し運河に転落。
16（月）●住宅メーカー三社、木造三階建て住宅を発表。
17（火）●野村証券、経常利益でトヨタ抜き日本一に。
18（水）●ソニー、米CBSレコード買収合意書に調印。
19（木）●豊作と円高でミカン暴落。出荷調整を開始。
20（金）●全日本民間労働組合連合会（連合）発足。
●企業の無担保短期資金調達（CP）の発行解禁。
21（土）●警視庁、日本赤軍の丸岡修を都内で逮捕。
22（日）●世界柔道無差別級で一九歳の小川直也が優勝。
23（月）●社会経済国民会議、土地問題で「分都」を提言。
24（火）●九大教養学部、食堂などで全面禁煙を実施。
25（水）●パリの競売会でボルドー産ワイン八本を日本人が四二万ドルで落札。
26（木）●東京ディズニーランド、開園四年で観客五〇〇〇万人を突破。
27（金）●竹下首相、新型間接税の導入方針を表明。
●成田新法を初めて発動し反対派団結小屋撤去。
28（土）●南ア航空機がモーリシャス付近で墜落。日本人四七人含む一五九人死亡。
29（日）●大韓航空機、ビルマ上空で行方不明に（12月15日爆弾テロ容疑で金賢姫を韓国に移送）。
30（月）●つくば市発足。周辺四町村が対等合併。

▲米ソ、ＩＮＦ全廃条約に調印（12月8日）米大統領レーガンとソ連共産党書記長ゴルバチョフがワシントンで会談、初の核兵器削減になる、中距離核戦力の完全廃棄に達した。

読売新聞社

▲韓国大統領に盧泰愚（12月16日）国民は、やはり与党・民正党を選択。2位の民主党・金泳三に200万票の大差で圧勝した。写真は17日、党本部へ到着し支持者の歓呼にこたえる盧（55）。

共同通信社

◀領空侵犯のソ連機に初の警告射撃（12月9日）沖縄上空を横切るなど2回も侵犯したため、戦闘機2機が緊急発進、強制着陸を求めるための曳光弾と実弾を威嚇発射した。

▼関東中心に強い地震（12月17日）震源は房総沖で、M6.7。千葉で震度5（強震）、東京で4（中震）を記録し、都心のビル街に悲鳴と恐怖が走った。写真は、市原市の盛り上がった道路。

朝日新聞社

朝日新聞社

▲横綱双羽黒、廃業（12月31日）生活の乱れを指摘され師匠の立浪親方（元関脇羽黒山）夫人らに乱暴、失跡していた。まだ24歳。甘やかせてきた親方、安易に綱を張らせた協会の双方の責任が問われた。

AP／WWP

◀フィリピンで史上最大の海難事故（12月20日）ルソン島沖でフェリーとタンカーが激突、炎上して沈没。死者3000人以上と推定され、救助された26人も大火傷を負っていた。

昭和62年 12月

1（火）●日本道路公団、常磐自動車道で初のハイウェイカードによる料金徴収を開始。
2（水）●株買い占めグループが台頭と『株主総会白書』。
3（木）●東京駅に世界初のエアカーテン式喫煙所設置。
4（金）●弁護士懲戒処分が史上最悪のペースと新聞に。
5（土）●ワシントンで、ホワイトハウスとソ連大使館を数千人が手をつなぎ結ぶ「平和への掛け橋」。
6（日）●福岡国際マラソンで中山竹通が優勝。
7（月）●最高裁、家裁以外の開廷前カメラ取材を解禁。
8（火）●米ソ首脳、ＩＮＦ全廃条約に調印。
9（水）●空自、領空侵犯のソ連機に初の実弾警告発砲。
10（木）●大蔵省、一九九二年までに銀行の自己資本比率を八％にするとのＢＩＳ基準を公表。
11（金）●日航、ジャンボ機と地上との電話交信実験。
12（土）●赤煉瓦の東京駅を愛する市民の会、発足。
13（日）●第一回大学女子サッカーで兵庫教育大が優勝。
14（月）●今年度ＭＶＰ西武・東尾投手の麻雀賭博発覚。
15（火）●長崎造船所で世界最大の船舶スクリュー完成。
16（水）●韓国で一六年ぶりの大統領選（盧泰愚当選）。
17（木）●警視庁、最上恒産に国土法初適用し書類送検。
18（金）●米で公共事業から日本企業排除の法案決定。
19（土）●警視庁、前年の三菱銀行有楽町支店の三億円強奪事件は仏人五人の犯行と断定。
20（日）●ルソン島沖でフェリーとタンカー衝突、沈没。三〇〇〇人以上死亡し史上最悪の事故に。
21（月）●赤字の大学は六〇校と私大連『財政白書』。
22（火）●第一勧銀と米シティバンク、オンライン提携。
23（水）●初の調査捕鯨船、南極へ向け横浜出港。
●北朝鮮抑留中の「第一八富士山丸」の船長と機関長に教化労働刑一五年の判決。
24（木）●教育課程審（会長・福井謙一）、答申。小学低学年に生活科新設、高校社会科廃止など。
25（金）●都内運転免許人口が五〇〇万人を突破。
26（土）●ＮＴＴ株続落し二一六万円と最安値を更新。
●朝シャン流行で洗髪用洗面台ヒットと新聞に。
27（日）●有馬記念でメジロデュレン優勝。連勝複式で同レース過去最高の一万六三〇〇円。
28（月）●大韓機事件で在日朝鮮人に暴行続発と新聞に。
29（火）●ソ連「ミール」のロマネンコ飛行士、宇宙滞在三二六日の最長記録を残し帰還。
30（水）●賃上げ率三・六％で四四年以降最低と労働省。
31（木）●日航初のジェット旅客機ＤＣ-８、全機引退。
●横綱双羽黒、立浪親方との対立から廃業。
●近藤真彦、「愚か者」でレコード大賞。

餓楽多市

◀大阪市東淀川区の大桐2丁目交差点に、パフォーマンス交通巡査が出現し評判になった。発進のポーズ。

読売新聞社

流行語
浮遊する若者の時代

「フリーター」。「フリーアルバイター」の略。学校を卒業しても定職につかず、自分の関心のあることだけやりながら、金がなくなるとアルバイトで稼ぐ若者たち。慢性的な人手不足でバイト代が高くなったことが、こういう若者の群れを生み出した。

「朝シャン」。通学や出勤前に髪を洗うことで、朝のシャンプーの意。前年、女子高校生やOLの間で流行し始め、この年、「朝シャン」という言葉でいっきょに広がった。朝シャン用のシャンプーやタオルまで登場したが、過剰な洗髪で髪を傷めるケースも続出した。

「ピンポーン」。友だち同士の会話の中で「そのとおり」と言う代わりに使う言葉。テレビのクイズ番組で正解の時に鳴る「ピンポーン」という音が転用されたもの。相手が間違えると「ブー」とか、「ブッ、ブー」と言う。

「冠イベント」。スポーツの大会や音楽会などで、頭に企業や商品名をつけた催しのこと。これまでにもあったが、この年急増し、同様の「冠大会」という言葉も広がった。

流行
高い鼻はイヤ！ 若い女性に低鼻術

低い鼻は日本女性の長年の悩みだったが、最近、東京や大阪の整形外科医院に「鼻を低くして」と駆けこんで来る女性が急増している。これまで鼻の形成手術の九〇％は隆鼻術だったが、ここ四、五年は六〇％台に落ち、特に最近は一〇人に一人が「低くして」という注文。理由は「同窓会に行くと、鼻が高くて私が一番老けて見える」「魔法使いのおばあさんみたいで、かっこう悪い」など。ただし東大の埴原和郎教授（人類学）によると「鼻が高くなったのではなく、固いものを食べなくなったため上顎が発達せず、鼻の周辺の骨が退化しただけ」。つまり発育不良の表れという。ちなみに低鼻術に要する費用は四〇万円から一〇〇万円である。（「週刊小説」六月二六日号）

CM100年

テレビCF
「音が進化した、人はどうですか ――ソニーウォークマン」（ソニー）

▲猿のチョロ松が草原にたたずみ、静かにウォークマンを聞く姿が荘厳さすら感じさせ、大人気に。

文化
善光寺で発見！ 日本最古の設計図

〔長野発〕長野市の善光寺で山門などの図面が発見され、現存する設計図としては日本最古のものであることがわかった。この図面は山門、鐘楼などの構造を墨で和紙に描いたものだが、これを調べていた東京国立文化財研究所の伊藤延男所長が、その中に室町時代の享禄四年（一五三一）と書かれているのを発見。日本に残っている設計図は、奈良県の談山神社に永禄二年（一五五九）のもの、鎌倉の円覚寺に元亀四年（一五七三）のものがあるだけだから、この設計図が日本最古のものと判明した。（「信濃毎日新聞」一月二六日）

データ
半分以上が東京に上場企業の本社

このところ、企業の中で本社の東京移転論がさかんである。そこで全国一八〇〇の上場企業の本社の所在地を調べたところ、こんな結果が出た。①東京都＝一一〇七（うち二三区＝九七八）、②大阪府＝三四五（大阪市＝二九〇）、③愛知県＝一一九（名古屋市＝七四）、④兵庫県＝八五（神戸市＝四六）、⑤神奈川県＝八三（横浜市＝三四、川崎市＝二二）。続いて京都府、福岡県、静岡県の順。（「週刊東洋経済」六月一三日号）

▶芸能誌の草分け的存在、月刊「平凡」が一二月号で廃刊。四二年の歴史を閉じた。

▲「週刊少年ジャンプ」1月2日号から連載の始まった荒木飛呂彦作の「ジョジョの奇妙な冒険」。毎回登場する派手な乱闘シーンが、子どもたちにアピールした。

はやり歌

日本クラウン提供

命くれない

作詞 吉岡治 作曲 北原じゅん

生まれる前から　結ばれていた
そんな気がする　紅の糸
だから死ぬまで　ふたりは一緒
「あなた」「おまえ」　夫婦みち
命くれない　命くれない　ふたりづれ
人目をしのんで　隠れて泣いた
そんな日もある　傷もある
苦労積荷の　木の葉の舟で
「あなた」「おまえ」　あぶな川
命くれない　命くれない　ふたりづれ
なんにもいらない　あなたがいれば
笑顔ひとつで　生きられる
泣く日笑う日　花咲く日まで
「あなた」「おまえ」　手をかさね
命くれない　命くれない　ふたりづれ

▲瀬川瑛子の歌手生活20周年記念で前年3月発売。この年、売り上げのトップを記録した。

あばれ太鼓

作詞 たかたかし 作曲 猪俣公章

どうせ死ぬときゃ　裸じゃないか
あれも夢なら　これも夢
愚痴はいうまい　玄界そだち
男命を　情にかけて
たたく太鼓の　暴れ打ち
酒と喧嘩は　あとへはひかぬ
意地と度胸の　勇み駒
惚れちゃならない　義理あるひとに
知って照らすか　片割れ月に
男泣きする　松五郎
櫓太鼓の　灯がゆれて
揃い浴衣の　夏がゆく
ばちのさばきは　人には負けぬ
なんでさばけぬ　男のこころ
小倉名代は　無法松

東芝EMI提供

▲演歌の新世代を代表する坂本冬美のデビュー曲。たちまちヒットし、ロングセラー曲になる。

時事通信社

▲川崎市・向ケ丘遊園に88.3メートルの屋外最長エスカレーター登場。

三面記事
〝商都〟を支える地方の郷土愛

〔大阪発〕大阪は「商人の街」と言われるが、商人の出身地を見ると大きな特徴がある。たとえば大阪には牛乳屋が九〇四軒あるが、そのうち村上姓が七四人で断トツ。次いで相原さん三四人、藤井さん二〇人、峰松さん一五人までが上位四番。実は全員が広島県因島市出身で、それも重井町という町まで同じ。敗戦後、二、三男は島を出て、同郷の親戚や先輩をたより大阪に出て来た。その名残である。

同じように一八一〇軒の銭湯のうち、半数以上が石川県出身。「楽はできないが堅い現金商売」ということで選んだ人が多い。耐え忍ぶことには北陸人は慣れているからという。同じ理由から大阪には石川県出身の豆腐屋も多い。

これに対して質屋の八割は奈良県と滋賀県の出身者で、滋賀の方が優勢。特に彦根の少し南にある三津屋町から出て来た人は、ほぼ全員が質屋を営んでおり、その数は今でも五〇人を超えている。

〝商都大阪〟の商売は地方の人々の同郷意識によって支えられているのであり、彼らは同郷者への融資制度などを通して固い絆を保ち続けている。（「サンケイ新聞・大阪版」二月一三日）

結婚
一位職場、二位ナンパ 当世男女出会い事情

〔京都発〕京都の結婚サービス会社が、婚約中のカップルを対象に〝出会いの場〟の調査を行った。回答は男性一二〇人、女性三五七人の四七七人で、年齢は一九～二五歳が二八〇人と約六割。

その結果、出会いの場所の一位は「職場」で九三人。二位は「ナンパ」で八六人。ナンパした場所は「旅行先」「喫茶店、ディスコ、パブ」「街頭」の順だった。この二つが図抜けており、ナンパが現代の出会いに欠かせないことがわかった。しかも「レジ係をしていて客の男性にアタックした」（二三歳）、「カラオケで別のグループで来ていた彼が気に入ったので、無理やりデュエットしてもらった」（同）など、ナンパは女性がするものになりつつあるという。（「北海道新聞」二月二五日）

◀国産初のコードレス電話機「もちはこベル」が、一二月にユニデンから発売された。二万九八〇〇円。

犯罪
あの刑事に会いたい ある無銭飲食者の感動

〔横浜発〕横浜市内の焼き鳥屋で無銭飲食を働いた男（四六）が、金沢署に突き出された。ところが、この男、警察に着くなり「あの刑事さんに取り調べてもらいたい」と、一人の刑事を指名した。

この男が同署に逮捕されたのは六回目。その刑事は毎回、ヴィクトル・ユゴーの小説『ああ無情』を引き合いに出しながら「もう二度と来るな」と懇々とさとしてくれる。それを聞いていると、感動で涙がぼろぼろ流れ、更生を誓いたくなる。今回も「あの感動にひたりながら更生したい」と、指名したのであった。（「神奈川新聞」八月二二日）

▶徳島県宍喰町の竹ケ島海中公園で七月、枯死被害のサンゴ移植作戦。

共同通信社

この年の初もの

ドライブスルー書店 東京・町田にオープン

●**お墓の掃除屋** 兵庫県姫路市の鉄工所主人が開業。カビや苔取りを含め、一基平均三万円。

●**宝籤の自販機** 東京・西新宿など、全国一〇ヵ所の第一勧銀支店に設置。

●**アメリカ製割り箸** アメリカ・ミネソタ州の木材会社製割り箸（一二〇〇万膳分）が初輸入。

●**デザイナーズ・ブランド浴衣** 石川県山代温泉のホテルにコシノジュンコがデザインの浴衣登場。

事件は憲法記念日の夜に起きた

記者二人を死傷させた闇からの銃撃

「赤報隊」、朝日新聞阪神支局を襲う！

「赤報隊」を名乗るグループが「朝日新聞」の阪神支局を襲撃、記者一人を射殺、一人に重傷を負わせる事件が発生した。そして犯行声明で「反日分子を処刑する」と宣言。その後「赤報隊」は当時の竹下首相、中曽根前首相を脅迫、リクルート元会長邸を襲うなど犯行を重ねた。事件はいまだ謎に包まれたままである。

▲阪神支局の編集室に捜査員が到着した時には、小尻記者は手前左のソファーにうつぶせに倒れ、犬飼記者は中央・長椅子の前に倒れていた。 朝日新聞社

目出し帽の男が侵入 無言で散弾銃を発射

こげ茶色の目出し帽で覆面した一人の男が、いきなり、兵庫県西宮市の朝日新聞阪神支局に侵入したのは、昭和六二年五月三日、憲法記念日の夜八時一五分頃だった。男は、その日の記事を書き終え、編集室のソファーで談笑していた二人の記者に向かって、無言で二発の散弾を腰だめで発射、そのまま逃走した。時間にしてわずかに一分ほどの出来事である。至近距離から発射された散弾のため、小尻知博記者（二九）が出血多量で死亡。犬飼兵衛記者（四二）は腹部に六〇発被弾し、右手の中指と薬指は散弾によりボロボロになり、小指切断の重傷を負った。

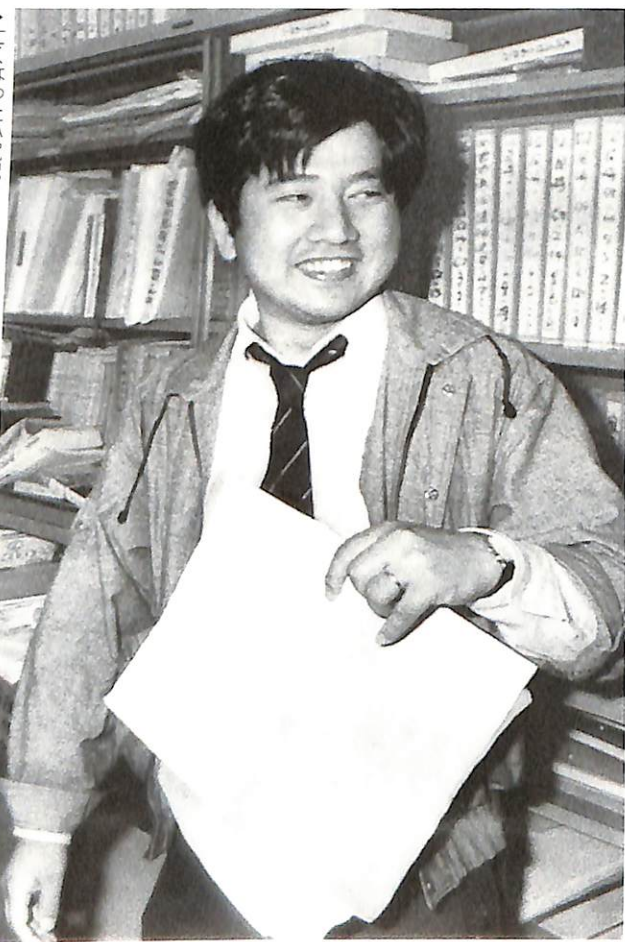
事件後、「赤報隊 一同」という署名で通信社に送られた犯行声明文には、

「この日本を否定するものを許さない。すべての朝日社員に死刑を言いわたす。きょうの関西での動きはてはじめである。われわれは最後の一人が死ぬまで処刑活動を続ける。」

と記されていた。

「赤報隊」は、幕末に実在した勤王の志士たちで、官軍東征の先陣を切った部隊だったが、後に「偽官軍」として処刑される。そうした点から「赤報隊」は右翼的色彩を持っていると推測された。実は「赤報隊」の「朝日」襲撃は、これが初めてではなかった。後に判明したが、この年の一月二四日夜、朝日新聞東京本社の窓に、やはり散弾銃が二発撃ちこまれていたのである。

この時の声明文には「これまで反日世論を育成してきたマスコミには厳罰を加えなければならない。特に　朝日は悪質である」と書かれていた。

署名は「赤報隊」だったが、その前に「日本民族独立義勇軍　別動」とあるのが、阪神支局襲撃の時とは違っていた。

▶亡くなった小尻記者。六〇年から阪神支局に勤務。指紋押捺問題などを精力的に取材していたという。 朝日新聞社

▶重傷を負った犬飼記者。右掌の三分の一を切断する。 毎日新聞社

一連の犯行声明は、いずれもシャープ製ワープロ「WD-二〇」で打たれ、一行の字数や行間隔の設定が同じであることから、同一犯による犯行と断定された。

阪神支局襲撃事件捜査が暗礁に乗り上げていた九月二四日、「赤報隊」は再度事件を起こした。朝日新聞名古屋本社の独身寮が襲われたのである。無人の居間に、やはり目出し帽をかぶった男が侵入、テレビに散弾を一発撃ちこみ、逃走途中に隣のマンションの壁にも発射したが、被害はなかった。さらに、昭和六三年三月一日には、静岡支局にピース缶爆弾が仕掛けられたが不発に終わっている。

一連の襲撃事件に首相らへの脅迫も

「赤報隊」の〝反日分子〟攻撃は、その後、意外な方向へ飛び火した。静岡支局事件の犯行声明と同じ消印の脅迫状が、中曽根康弘前首相と、竹下登首相に送りつけられたのである。それはいずれも、「靖国や教科書問題で民族を裏切った」と指摘し、そうした政治姿勢を変えない

外から見たNIPPON

韓国のパーカッション・グループ「サムルノリ」の"カラオケ文化"批判

——佐伯 修

　ステージの上を、スキップするように旋回しながら、四人の男たちが打ち鳴らす、杖鼓(チャンゴ)などの打楽器の響きが、ひときわ高まり、男たちの旋回も、早まってきたリズムに合わせて、スピードを増してきた。

　すぐ前の客席では、思いあまったように腰を浮かして、リズムに合わせて踊り出そうとする在日コリアンとおぼしい老女を、隣からその娘が「お母さん、恥ずかしいから、やめて」と必死で止めている。しかし、まもなく、客席は、コリアンも日本人もなく総立ちとなり、ほぼ全員が踊り出した。

　そんな光景を見たのは、この年、東京の荒川で行われた、韓国のパーカッション・グループ「サムルノリ」の公演会場でのことだったと記憶する。

　「サムルノリ」とは、四物(サムル)(四種の楽器)で遊撃(ノリ)(遊び)をする、という意味で、朝鮮半島の農村に伝わる「農楽(プンムル)」をベースに、かつて「農楽」を奏でながら農村を巡回した、放浪芸人集団「男寺党(ナムサダン)」の宗教性や祝祭性を受け継いで、現代的なパフォーマンス・アートとして甦(よみがえ)らせようと、一九七八年に結成された。そして、この八七年には、日本でも、二二ヵ所で、延べ約五〇ステージの公演を行っている。

▶リーダーの金徳洙は杖鼓(チャンゴ)の名手。

　さて、翌八八年に日本で刊行された、「サムルノリ」メンバー語り下ろしの本『サムルノリ宣言』の中で、グループのリーダーである金徳洙(キムドクス)(一九五二〜)は、日本について、こんなことを言っている。

　「かつて、西洋が東洋から学んだ時代があった。これから先、東洋がもう一度こっちの力を見せるためには、やはり日本の役割が重要になるし、そのリードの仕方によって、まったく変わっていくと思う。それから、私の目で今の日本をよく見ると、あまりにも西洋のマネをし過ぎているんじゃないかな。できることは、もちろんマネしたっていいと思う。だけどできないことまで、マネをしている。体のなかに流れている血は、いくらマネをしたって変わらないよ。今の日本は、そこまでしているように見えるね」(改行を省略した)

　「体のなかに流れている血は変わらない」という点で、彼は在日の同胞に対しては、コリアンとしての自分を「はっきりと見せ」て、「相手(日本人)に自分の存在を認めさせる」べきだとの見解を述べている。

　また、日本の生んだカラオケ文化を酷評して「確かに歌だけはライブだけど、死んでいるよ。決まっていることに合わせているだけでしょう。(中略)詐欺と同じだよ」。

場合には「処刑」をにおわせたものだった。そして、昭和六三年八月一〇日、東京・南麻布の江副浩正(えぞえ)リクルート元会長宅が襲われた。午後七時二〇分頃、江副邸の玄関に散弾が撃ちこまれ、雨合羽(あまがっぱ)に眼鏡をかけた不審な男が目撃された。この時の声明は、「リクルートコスモスは赤い朝日に何回も広告を出して　金をわたした」と"罪状"をしたためていた。

　さらに平成二年五月一七日夜には、名古屋市の愛知韓国人会館が放火された。被害はガラスの破損にとどまったが「反日韓国を　中京方面で処罰した」という犯行声明が出されたのである。

　この一連の事件に対し、戦後の枠組みが大きく揺らぎつつあったことが背景となっている、との指摘がなされた。つまり東西対立という図式が塗り替えられつつあったのである。国内では中曽根前内閣が「戦後政治の総決算」を呼号(こごう)し、国際的にはゴルバチョフ・ソ連書記長が「ペレストロイカ」路線を打ち出していた。そして阪神支局襲撃の翌々年の平成元年には、ベルリンの壁が崩壊している。

　こうした内外情勢のもとで「朝日」が襲撃され、中曽根、竹下の前・現首相に脅迫状が送付されたのである。

　立命館大学の桂敬一教授(ジャーナリズム論)は次のように指摘する。

　『赤報隊』の事件は、激動の時代に対する右翼側の危機感があったのでしょう。それは一方で朝日新聞に向かい、一方では竹下、中曽根に向けられた。左翼『偏向』への最も効果的なターゲットである『朝日』を襲うことで自分たちの利用価値をアピールし、他方で、従来支配層に組みこまれていた右翼が、自分たちを切り捨てるとえらいことになるぞ、と警告するという二つの意味があったのだと思います」

　阪神支局襲撃をはじめ一連の事件を、警察庁は広域重要「一一六号」事件に指定し、平成九年一一月末までに投入した捜査人員は、延べ約三九万人。現在も九四人の捜査態勢を継続している。だが犯人逮捕にはいたらないままだ。多くは時効を迎え、残っているのは阪神支局襲撃事件(時効、平成一四年)と、静岡支局爆破未遂事件(同一五年)の二件だけ。

　朝日新聞社広報室は、

　「言論の自由を暴力で封じこめようとするこうした風潮は絶対に許せません。小尻記者や遺族の無念の思いを晴らすことができず、未解決のまま現在を迎えたのは残念です。今後も暴力に屈することなく、粘り強く犯人に迫る取材を続けていきます」

とコメントしている。

　阪神支局襲撃で小尻記者が死亡した時に二歳だった一粒種の美樹さんは、この春、中学二年生になった。

▶通信社に送付された「赤報隊」の警告文。上は阪神支局襲撃の五月三日付け、下は一月二四日の本社襲撃時のもの。

共同通信社

往きて還らぬ

毎日新聞社

▲8月5日　澁澤龍彦(しぶさわたつひこ)(59)
小説家、仏文学者。サド研究家で、訳書『悪徳の栄え』ではサド裁判が起こる。著書に『高丘親王航海記(たかおかしんのうこうかいき)』など。

▲8月7日　岸信介(のぶすけ)(90)
政治家。昭和17年衆議院議員当選。31年外相、翌年首相。35年安保闘争の責任をとって退陣。元首相・佐藤栄作の兄。

▲8月18日　深沢七郎(しちろう)(73)
小説家。『楢山節考(ならやまぶしこう)』で知られる。昭和35年の『風流夢譚(ふうりゅうむたん)』が右翼を刺激し、中央公論・嶋中(しまなか)社長邸襲撃事件に発展。

▲12月29日　石川淳(じゅん)(88)
小説家。無頼派として知られる。昭和12年『普賢(ふげん)』で芥川賞受賞。ジードの翻訳も手がけた。ほかに『狂風記』など。

▲6月16日　鶴田浩二(62)
俳優。ニヒルな二枚目スターで、東映の任侠(にんきょう)映画で活躍。歌手としても「傷だらけの人生」などヒットを飛ばした。

▲7月10日　羽仁説子(はにせつこ)(84)
社会運動家。雑誌記者の後、児童福祉発展に尽力、「日本子どもを守る会」初代会長に。夫は歴史学者・羽仁五郎。

▲7月16日　トニー谷(69)
コメディアン。戦後日劇ミュージックホールの司会者に。ソロバン片手に"さいざんす"など多くの流行語を生んだ。

▲3月3日　ダニー・ケイ(74)
米の俳優、エンターテイナー。コメディ映画や舞台で活躍、早口の歌や機知に富んだジョークで人気者に。

▲3月4日　北村西望(せいぼう)(102)
彫刻家。長崎の「平和祈念像」制作者。昭和33年文化勲章受章。東京・井の頭公園内に作品を展示した彫刻館がある。

▲6月6日　森茉莉(まり)(84)
小説家。森鷗外(おうがい)の長女。50歳をすぎて作家デビュー、昭和50年『甘い蜜の部屋』で泉鏡花(きょうか)賞受賞。エッセーも多い。

▲1月21日　梶原一騎(いつき)(50)
マンガ原作者。「少年マガジン」連載の「巨人の星」「あしたのジョー」が大ヒット、"スポ根"もののブームを作った。

▲2月9日　貝塚茂樹(しげき)(82)
中国史家、元京大教授。中国古代の甲(こう)骨(こつ)文字・金文(きんぶん)研究で業績を残す。昭和59年文化勲章受章。湯川秀樹は弟。

◀2月22日　A・ウォーホル(58)
米の画家。「ポップ・アート」の旗手。缶詰のラベルやM・モンローが題材の作品で知られる。写真中央。

週刊 YEAR BOOK 日録20世紀

第60号 4月21日(火)発売 定価560円 毎週火曜日発売 講談社 本体533円

1988［昭和63年］

●特集
本名・田口八重子、三五歳「李恩恵」は、なぜ拉致されたか？／未公開株をバラまかれたリーダーたち「リクルート事件」の〝醜悪〟構造／アジアからの「不法就労者」急増！ 〝じゃぱゆきさん〟の悲劇／それは〝第二のベトナム戦争〟だった ソ連軍、アフガンから撤退開始！

●ニュース・ファイル
フォト＋日録で再現する366日…東京ドーム落成(3月17日)／坂本龍一にアカデミー賞作曲賞(4月11日)／潜水艦「なだしお」衝突事件(7月23日)／イラン・イラク戦争停戦(8月20日)／鈴木大地、ソウル五輪で金メダル(9月24日)／長崎市長、天皇の戦争責任を明言(12月7日)

●人物クローズアップ
鈴木健二、NHKから「気くばり」転身

●決定的瞬間
イラク軍、クルド人に毒ガスを使用！

●美の出会い
藤ノ木古墳、開棺の〝大フィーバー〟

●女たちの肖像…〝永遠の青春仕掛人〟松任谷由実／勝者・敗者…トレーナー「エディさん」の最終戦／証言・あの日この日…田中康夫、上野千鶴子／「現場」を歩く…「ふるさと創生」と中土佐町の純金カツオ／20世紀博物館…台東区立下町風俗資料館(東京)／外から見たNIPPON…ヤコブ・ラズの「ヤクザの文化人類学」

●ベストセラー…村上春樹『ノルウェイの森』／スターと名場面…アニメ・ファンタジー「となりのトトロ」／モノ語り'88…「リンクルガード」「ファイブミニ」

日録20世紀専用バインダー

高級感あふれる特製バインダーを用意しました。「日録20世紀」を10冊ずつ年代順にバインダーにとじてそろえれば、「20世紀」ビジュアル百科のできあがり。10年ごとに分類するためのシールも添付しました。取りはずしは簡単で、整理にも便利、じょうぶな仕上がりです。あなたの書斎を飾るホーム・ライブラリーとして、永く保存してお楽しみください。バインダーは1部1300円(税別)。全国の書店でお求めください。

■既刊好評発売中（既刊59冊！1930・1940・1950・1960・1970年代がそろいました）

一九三〇年代
第43号1931[昭和6年] 第44号1932[昭和7年] 第45号1933[昭和8年] 第46号1934[昭和9年] 第47号1935[昭和10年] 第48号1936[昭和11年] 第49号1937[昭和12年] 第50号1938[昭和13年] 第51号1939[昭和14年] 第52号1940[昭和15年]

一九四〇年代
第19号1941[昭和16年] 第20号1942[昭和17年] 第21号1943[昭和18年] 第22号1944[昭和19年] 第3号1945[昭和20年] 第23号1946[昭和21年] 第24号1947[昭和22年] 第25号1948[昭和23年] 第26号1949[昭和24年] 第27号1950[昭和25年]

一九五〇年代
第36号1951[昭和26年] 第37号1952[昭和27年] 第38号1953[昭和28年] 第39号1954[昭和29年] 第40号1955[昭和30年] 第41号1956[昭和31年] 第42号1957[昭和32年] 第6号1958[昭和33年] 創刊号1959[昭和34年] 第11号1960[昭和35年]

一九六〇年代
第12号1961[昭和36年] 第13号1962[昭和37年] 第5号1963[昭和38年] 第2号1964[昭和39年] 第14号1965[昭和40年] 第15号1966[昭和41年] 第16号1967[昭和42年] 第17号1968[昭和43年] 第18号1969[昭和44年] 第4号1970[昭和45年]

一九八〇年代
第54号1982[昭和57年] 第55号1983[昭和58年] 第56号1984[昭和59年] 第57号1985[昭和60年] 最新刊 第58号1986[昭和61年]

■今後の刊行予定
▶第61号1990[平成2年]4月28日発売
「即位の礼」挙行●秋山豊寛さん、宇宙へ●少子化社会の到来●東西ドイツ統一の〝理想と現実〟
▶第62号1921[大正10年]5月12日発売
皇太子、欧州巡遊●安田善次郎と原敬、暗殺●柳原白蓮の恋と出奔●チャップリンの「キッド」
▶第63号1922[大正11年]5月19日発売
ツタンカーメンの墓発見！●ワシントン軍縮会議の衝撃●児童雑誌ブーム●シベリア「極東共和国」
▶第64号1924[大正13年]5月26日発売
皇太子、ご成婚●宮沢賢治『春と修羅』でデビュー●「排日移民法」成立！●孫文、最晩年の輝き！
▶第65号1925[大正14年]6月2日発売
ラジオ放送、始まる！●「治安維持法」制定●「東京六大学野球リーグ」戦スタート●「ライカ」誕生
▶第66号1926[昭和元年]6月9日発売
大正天皇崩御と〝元号誤報〟騒動●「同潤会アパート」出現●「福岡連隊事件」●R・ヴァレンチノ急逝！

ミニ事典
1987年のキーワード

老人保健法改正
人口高齢化による医療保険財政の赤字拡大を防止するため、七〇歳以上の老人医療費自己負担を外来で一ヵ月四〇〇円から八〇〇円に倍増するなどを骨子とした、昭和五七年制定の老人保健法の改正法。一月一日施行。そのほか、健康保険などからの拠出金の増加、老人保健施設の創設などをうたっている。

光華寮問題
京都市の中国人留学生寮「光華寮」の所有者・台湾当局が中華人民共和国を支持する寮生八人の退去を求めた訴訟で、二月二六日、大阪高裁が原告勝訴の判決を下したために起こった日中間の紛争。六月には中央顧問委主任・鄧小平が、三権分立を理由に静観する日本政府の対応を批判。外務省首脳が「鄧主任は雲の上の人」と応答したため、事態は一層、紛糾した。

共同通信社
▶光華寮問題は中国唯一の政府を中華人民共和国とする日中共同声明と矛盾。

酸性雨
自動車や工場などから排出された硫黄酸化物や窒素酸化物が、大気中で水分と化合し、強い酸性となった雨。通常の雨がpH五～七の弱酸性であるのに対し、pH四・五以下を示し、森林を枯らし湖沼の魚を殺すなど生態系を破壊、欧米で深刻な環境問題となっていた。三月二七日、環境庁は、実態調査の中間報告を発表、日本でも全国一四地点の年平均値がpH四・四～五・三であることがわかった。

てぐす公害
水辺に捨てられたてぐす（釣り糸）で野鳥が傷つく被害。四月一〇日、日本鳥類保護連盟が全国のボランティアの協力で行った実態調査結果を発表。それによると被害は全国におよび、調査した地域二三四ヵ所中、てぐすもなく、それによって被害を受けた鳥もいない地域は一六ヵ所しかないことがわかった。

リゾート開発法
国民が余暇に滞在しながら行うスポーツや娯楽などの利用設備を、民間事業者の活用に重点をおいて進めようとする法律。正式には総合保養地域整備法と言う。六月九日公布・施行。健康志向や余暇時間の増大、内需主導型経済構造への転換の必要などを背景として発案された。しかしリゾート開発促進は自然破壊に結びつくため、自然保護運動に逆行するものとして問題視されている。

四全総
第四次全国総合開発計画の略。二一世紀に向けての国土造りの指針。東京圏への一極集中を排し、多極分散をめざすことを特徴とした。国土庁が五月に発表、六月三〇日に閣議決定された。多極分散の実現にはネットワークの形成が不可欠とし、全国一日交通圏の構築、サービス総合デジタル網（ISDN）の拡充などを具体的施策としてあげた。

ボディーコンシャス（ボディコン）
身体の線を強調する女性のファッションのこと。この夏から流行。それまでのオーバーサイズ・ファッションに対して、女らしいシルエットを意識するトレンドから生まれた。フランスのデザイナー、アライアが代表。日本ではワンレングスのロングヘアを組み合わせたため「ワンレン・ボディコン」として知られた。

▶コンシャスは「意識している」の意。
［ストリートファッション一九四五―一九九五］／パルコ出版提供

『予報用語集』
気象庁が天気予報に用いられる言葉づかいを定めた指針。昭和四一年三月初版発行。この年二一年ぶりに全面改訂されることになり、七月二〇日発表、八月一日実施された。「曇り一時雨」が「曇り朝のうち一時雨」のように、より具体的になったことを特徴とする。

宗教サミット
比叡山開創一二〇〇年を記念して八月三、四日の両日、京都市で開かれた世界宗教会議。世界七大宗教代表者を含む、海外一六ヵ国二四人ら約五〇〇人が参加。日本宗教代表者会議名誉議長・山田恵諦天台座主の呼びかけで、諸宗教が協力しながら平和を祈ることを目的とした。四日の会議で平和実現を趣旨とする「比叡山メッセージ」が採択された。

フロンガス
クロロフルオロカーボンの通称。無毒、不燃性、圧縮すると液化するなどの特徴から冷蔵庫やクーラーの冷媒剤、スプレー噴射剤などに多用。しかし化学的に安定で分解されずに成層圏に達するため、オゾン層を破壊、紫外線を直接地上に呼びこみ皮膚癌の原因となることがわかってきた。九月一六日、先進二四ヵ国は一九九九年までにフロンガスの消費量を半減するとの議定書に署名した。

P4実験室
遺伝子組み換えにより他の生物の遺伝子を導入された微生物などが外部にもれないようにする「物理的封じこめ」施設の中で、最も厳重な施設。昭和五四年に科学技術庁が出した「組み換えDNA実験指針」に基づいて規定。P4実験室での遺伝子組み換えは、一〇月一三日、理化学研究所ライフサイエンス筑波研究センターの申請が初めて認可された。

理化学研究所提供
▲昭和59年3月に完成したP4実験室。基準のゆるやかな順にP1からP4までが定められた。

連合
全日本民間労働組合連合会の略。イデオロギーや支持政党の違いによって対立してきた歴史を超えて、全的統一をめざした労働組合組織。「野党共闘推進」「反自民非共産」を掲げる。一一月二〇日結成、主要民間組合の大半、五五単産、五三九万人が加盟する日本最大の労働戦線となった。平成元年さらに総評、旧同盟系官公労が参加、全日本労働組合総連合会（新連合）に発展、初代会長に山岸章が就任した。

週刊YEAR BOOK／日録20世紀 1987

CONTENTS

●編集
講談社総合編纂局
アート・ディレクター 山口至剛
表紙デザイン 山口至剛デザイン室（茂村巨利）＋渡邉裕…
本文レイアウト デザインオフィス八起き
編集協力 有エービーシープレス 株カマル社 株コミュニケーションハウス・ケースリー シド・プロ 有マックス 有マライカ
飯田守 小原伸夫 鍵和田良輔 菊池美優貴 小松邦宏 張替政展
藤森雅弘 結城順・ 吉田忠正
●写真協力
荒木飛呂彦 内山英明 奥村健太郎 桑原史成 トム・ソポリック
田河水泡 但馬一憲 土井全二郎 前田真三
朝日新聞社 AP キネマ旬報社 共同通信社 サンテレフォト
時事通信社 集英社 新華社 中国通信 日刊スポーツ 日本テレビ
パルコ出版 PPS BLACK STAR 報知新聞社 毎日新聞社 ユニフォト・プレス 読売新聞社 ロイター WWP
伊丹プロダクション 東芝EMI 日本クラウン ユニデン
東京動物園協会 理化学研究所

定価560円

雑誌 23714-4/28
Ⓛ-2001/1/1

T1123714040564

印刷 凸版印刷株式会社 製本 大村製本株式会社